

# 新潟県央工業高校山岳部 インターハイの軌跡

2012 年新潟インターハイ優勝の記録



新潟県央工業高校(旧三条工高)山岳部OB会



## 目 次

- 山岳部とOB会のあゆみ 2
- インターハイでの登山大会について 4
- 全国大会出場の記事 6
- 新潟インターハイ出場選手の報告書 3 1
- OB支援隊員の感想 3 7
- OB会掲示板より インターハイ関連投稿の転載 5 0
- 新潟インターハイ関連記事の転載 7 0
- 最高の地元優勝 7 3

## 山岳部とOB会のあゆみ

年次	西暦	和歴	インターハイ出場	その他の出来事
1	1963	昭 38		三条工業高校山岳部創設
2	1964	昭 39		新潟地震
3	1965	昭 40	大分大会（選手；金子徳蔵）	岐阜国体（選手；斎藤勲、監督；高橋小一郎）
4	1966	昭 41		三条工業高校山岳部 OB 会創設
5	1967	昭 42		
6	1968	昭 43		
7	1969	昭 44		長崎国体（選手；長谷川一良、監督；金子達）
8	1970	昭 45		
9	1971	昭 46		一ノ倉沢南稜登攀（高橋先生、OB3 名）
				巻機山の家でのOB会総会開始
10	1972	昭 47		鹿児島国体（選手；斎藤誠）
				「三工山岳部 OB 会だより」発刊
11	1973	昭 48		
12	1974	昭 49		
13	1975	昭 50		OB 長谷川晴一；三重国体出場
14	1976	昭 51		
15	1977	昭 52		
16	1978	昭 53		
17	1979	昭 54		
18	1980	昭 55		ヒマラヤトレッキング（OB 4 名）
19	1981	昭 56		「OB 会 15 周年記念誌」発刊
20	1982	昭 57		
21	1983	昭 58		
22	1984	昭 59		
23	1985	昭 60		OB 椿敏彦、阿部孝幸；鳥取国体出場
24	1986	昭 61	山口大会（縦走 5 位）	OB 阿部孝幸；山梨国体出場
25	1987	昭 62	北海道大会（団体優秀校）金メダル	
26	1988	昭 63	大阪大会（縦走順位なし）	
27	1989	平元		北信越大会（新潟）優秀校
28	1990	平 2	宮城大会（縦走 7 位）	
29	1991	平 3	静岡大会（団体 14 位）	
30	1992	平 4		北信越大会（石川）優秀校
31	1993	平 5	栃木大会（団体 16 位）	
32	1994	平 6	富山大会（団体 9 位）	

年次	西暦	和歴	インターハイ出場	その他の出来事
33	1995	平 7	鳥取大会 (団体 11 位)	阪神淡路大震災
34	1996	平 8	山梨大会 (団体 6 位) 入賞	
35	1997	平 9	京都大会 (団体 2 位) 銀メダル	
36	1998	平 10	高知大会 (団体 6 位) 入賞	
37	1999	平 11	岩手大会 (団体 8 位)	
38	2000	平 12	岐阜大会 (団体 12 位)	
39	2001	平 13	熊本大会 (団体 17 位)	
40	2002	平 14	茨木大会 (団体 3 位) 銅メダル	
41	2003	平 15	長崎大会 (団体 25 位)	
42	2004	平 16	島根大会 (団体 21 位)	新潟豪雨、新潟県中越地震、校名変更
43	2005	平 17	千葉大会 (団体 14 位)	
44	2006	平 18	奈良大会 (団体 14 位)	
45	2007	平 19		山岳部員減少し一時 1 名になる
46	2008	平 20		北信越大会 (福井) 順位なし
47	2009	平 21	兵庫大会 (団体 19 位)	「OB 会 40 周年記念誌」 発刊
48	2010	平 22	沖縄 (鹿児島) 大会 (縦走 5 位)	OB 会 HP 開設、事務局役員改選
49	2011	平 23	青森大会 (団体 17 位)	東日本大震災、吉田先生;環境省より表彰
50	2012	平 24	新潟大会 (優勝) 金メダル	旗手 3 名, 役員 9 名, 支援隊員 14 名大会参加
51	2013	平 25	大分大会	

- 昭和 40 年の大分大会は個人選抜チームで参加し、まだ表彰制度はありませんでした。
- 団体男子 (A 隊) は全国の都道府県から 47 の代表校が参加し、開催県は 2 校が参加します。
- 種目縦走 (C 隊) は各ブロック選抜の形式で全国から 23 の代表校が参加します。C 隊は平成 22 年を以ってなくなりました。
- 平成 5 年までは上位 4 校を同列で「優秀校」として表彰し、優秀校には金メダルが授与されました。
- 平成 6 年から表彰制度が変わり、順位発表をして 1 位は金メダル、2 位は銀メダル、3 位は銅メダルを授与することになり、6 位までを入賞として表彰することになりました。

## 全国高校総体（インターハイ）での登山大会とは？

登山で大会といっても「いったい何を競うの？」という疑問を持たれる方も多いと思います。以下は「2012 北信越かがやき総体」で登山種目の会場となった新潟県南魚沼郡湯沢町のホームページからの転載ですが、とても分かりやすく説明されておりますのでご一読ください。

高校総体の登山大会は安全が第一であり、安全に山に登り、事故もなく無事に山から戻ってくるということが前提となっています。登山競技ではなく登山大会と呼ぶのもそのためです。競技内容は皆さんが普段登山する時と似ているかもしれません。皆さんが、もし親しい仲間同士でテントを持って泊まりがけで山に行こうという話が持ち上がったとしてみてください。地図を見ながら、どんな山で、何時に出発して、どこに泊まって、食料はどういうふうにして、天気は、コースは…など、いろいろなことを思い浮かべるとと思います。

高校総体の登山競技は、このような普段登山をする際に必要となることを項目別に分けた上で点数を設定し、その得点で順位を競います。その項目は下記のとおりです。

1. 安全に登山することのできる体力と歩行技術がある「行動」 … 40点
2. しっかりとした装備を準備・携行する「装備」 … 10点
3. テントの設営などを協力して効率よくできる「設営・撤収」 … 10点
4. カロリーなどを考えた献立で炊事する「炊事」 … 5点
5. 天気に関する知識の習得・天気図を書く「気象」 … 7点
6. 登る山について知る、地図を読むことができる「自然観察」 … 8点
7. 計画を立てる、事後に役立つような行動記録をとる「計画・記録」 … 10点
8. けがや病気の場合の救急の知識、対処法、医薬品を備えておく「救急」 … 5点
9. 自然に対するマナー、仲間との協調性を持っている「態度」 … 5点

1 チーム4人で編成されたパーティー（行動を共にする集団）が3泊4日の行程で、各自が全ての食料・装備などを背負い、予定されたコースを歩きます。山に登るための準備（登る山域の調査や計画書の作成）から、下山するまでのすべてが対象となっています。たとえば「行動」は、最も配点が大きいのですが、チームの中の1人でも遅れがちになると、そのチーム全体が減点されます。個々の能力も重要ですが、チームワークはさらに重要になります。審査員はパーティーの前後を行ったり来たり、また山中にひっそりと隠れたりして各パーティーの行動を観察しています。

ちなみに、登山競技では監督もチームに付き添うように行動しなければなりません。もし監督がリタイアするとその学校のチーム全員がリタイアになるという、監督にとっても過酷な競技です。また、開会式の後に筆記試験（山に関する知識テスト・天気図の作成）が行われるのも、登山競技ならではのユニークなものです。2012北信越かがやき総体の登山競技は、全国から450人余りの選手・監督が集結し、8月7日から11日まで苗場山、平標山、三国峠で開催されます。苗場プリンスホテル特設幕営地に幕営（テントの設営）し、3コースを目指すこととなります。



新潟インターハイが終わり、山岳部も創部より50周年になります。あらためて部の存在目的を確認すべく、全国大会と三条工業高校から受け継いできた県央工業高校山岳部のテーゼを掲載します。

### 登山大会成績評価実施要領（抜粋）

登山大会は、正しい高校生登山の在り方を求め、その着実な展開と研究を主目的として安全登山を推進するためのものである。単に優勝を競い順位を争うものでなく、大会の主旨を尊重し、登山の基礎的な技術・態度を着実に実践できることを主眼として行うものである。

### 部のテーゼ

四季を通じて健全な登山（精神・技術を含めて）を教えること。  
その登山は、社会人になって登山のリーダーとなり得ること。  
大会はその励みと実力テストである。



## 県央工業高校山岳部の全国大会出場記録

昭和 40 年 大分大会 選手：金子徳蔵

昭和 40 年の大会は個人選抜チームで参加し、まだ表彰制度はありませんでした。

昭和 61 年 山口大会 種目縦走 5 位



吉田が監督になって初めてのインターハイ出場。

島根県との県境で開催された。

オール2年生の選手でC隊（種目縦走）に出場して成績は5位。

この頃は4位までが優秀校だったから全国のトップが見えた気がした。

C L 青木 一寛  
志田 篤史  
菅野 勝一  
高山 光  
監督 吉田 光二



昭和 62 年 北海道大会

団体男子

優秀校 (金メダル)



妙高山での県総体で初優勝してA隊に出場。

前年経験の3人を中心にオール3年生でチーム編成してトップをねらった。

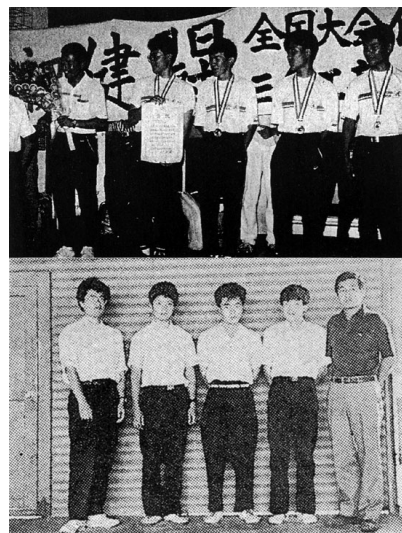
ニセコ、羊蹄山などをコースにしたが、荒天のためコース変更。

風雨の羊蹄山山頂で選手たちの光る笑顔を見たとき、メダル獲得を確信した。

結果は優秀校4校に入り金メダル受賞。

この大会から「悪天の三条工」の異名をもらった。

C L 青木 一寛  
志田 篤史  
高山 光  
川井 正幸  
監督 吉田 光二



昭和 63 年 大阪大会

種目縦走



葛城山系で開催された。

県総体は本校が当番校で白毛門から清水峠に縦走する大会史上語り継がれる厳しい大会運営をしながら2位。

インターハイはC隊（種目縦走）に出場。

全員3年生ながらもインターハイ経験者なしの貯金ゼロのチーム編成。

大会中に体調を崩した選手がいたためリタイアして順位なし。

C L 鎌迫 彰一郎  
塩原 剛  
竹之内 貴志  
有本 英之  
監督 吉田 光二

平成 2年 宮城大会

種目縦走

7位



宮城県の蔵王山系で開催。

炎暑の大会で、熱中症で倒れる選手が続出し、大会にむけて建築された山小屋も満員状態になった。

この大会、C隊（種目縦走）に出場、7位。

水落監督のデビュー大会となった。

C L 猪熊 尚洋  
松井 英樹  
大山 岳宏  
石村 統  
監督 水落 竜馬  
視察 吉田 光二



平成 3 年 静岡大会

団体男子 14 位



静岡県で開催。3000m級の南アルプスを縦走するこれまでにないコース設定のため、開催県は「全パーティ完全縦走」を目標に、大会設営にあたった。

大会中は天候にも恵まれ、一校のリタイヤもなく、大会は大成功に終わった。本校はA隊に出場し14位。

CL 石村 統  
近藤 秀峰  
高橋 圭一  
梨本 繁治  
監督 水落 竜馬  
視察 吉田 光二

平成 5 年 栃木大会

団体男子 16 位



日光男体山、白根山などで開催され、国際観光地として名を揚げていた中禅寺湖温泉街は「中禅地獄温泉」と呼ばれるほどに悪評だった。

酸性霧による植生被害や高山植物の盗掘など、自然が壊されていく姿が印象に残った。

本校はA隊に出場し16位。

C L 上杉 護  
蝶名林 勉  
長谷川 浩司  
吉田 弘行  
監督 水落 竜馬  
視察 吉田 光二

平成 6年 富山大会

団体男子

9位



立山、浄土、黒部湖で開催。開会式で「目指せ全国制覇」の横断幕を持った部員保護者の熱烈応援にビビりながら、雷鳥沢から立山三山を縦走して五色が原から黒部湖に下りて、一気に一乗越に登りかえすという、通常では考えもつかない登山コースを完走。

A隊で9位だった。

渡辺先生の大会デビューであった。

C L 吉田 弘行  
北村 優  
広瀬 守彦  
塚田 大介  
監督 吉田 光二  
視察 渡辺 伸樹



平成 7年 鳥取大会

団体男子

1 1 位



平成7年度 全国高校総体登山大会 H7.8/5~9

大山とその周辺を会場に開催された。A隊 11 位。

大会は行動予定が遅れたために夕食から消灯までの時間がなく、翌日の昼食を弁当に予定していた本校はご飯を炊きなおすことができないため、消灯時間を遅らせるように、北信越各県の協力を得て運営に申し入れしてもらって難を逃れた。ブロック各県のありがたさを感じ取った大会だった。

渡辺先生の監督デビュー大会でもあった。

C L 塚田 大介  
金子 慎二郎  
馬場 晋哉  
加藤 寛進  
監督 渡辺 伸樹  
視察 吉田 光二



平成 8年 山梨大会

団体男子

6位 (入賞)



日本第二の高峰・北岳と甲斐駒ヶ岳を中心に開催された。A 隊に出場して 6 位入賞。  
本校としては珍しく事前合宿を夏山合宿とかねて北岳で行ったが早川尾根を二度も登るのはつまらないと、大会では登らないことになっている仙丈ヶ岳にエスケープしてしまい、下見にならない下見山行をやった。

この合宿で良い山に登ることが部員にとって何よりの財産になることを実感した。

C L 加藤 寛進  
番場 誠  
坪田 昇  
金子 龍一  
監督 吉田 光二

平成 9 年 京都大会

団体男子

2 位 (銀メダル)



平成9年度 全国高校総体登山大会 H9.8 / 4~8

昨年のメンバー 2 人に 3 年生 2 人を加えてオール 3 年生のチーム編成で大会の上位を狙う。

京都府北部、福井県境の山々を会場に開催され、内陸なので暑さ対策が盛んにいわれたが、雨天が続き寒くて仕方がなかった。雷雨の頭巾山で部員の顔が楽しそうに光っていた。

悪天の三条工の出番とばかりに大活躍し、A 隊 2 位・銀メダルに輝くことができた。

体力、意欲、そして人間的にも、北海道の金メダルチームに引けを取らない最高のチームであった。

C L 番場 誠  
金子 龍一  
澤口 耕一郎  
相田 司  
監督 吉田 光二



平成9年度 全国高校総体登山大会 H9.8 / 4~8



平成 10 年 高知大会

団体男子

6 位 (入賞)



平成10年度 全国高校総体登山大会 H10.8 / 2~6

三嶺を中心に開催された。

大会経験者なしの3年生2名、2年生2名でチーム編成。

前年の経験もプレッシャーも何もなく、ただただ我武者羅に頑張ろうと大会に臨んだ。

天候は雨。泥だらけの天場であったが、悪天の三条工にとっては日常のこと。結果は、A隊6位入賞。三年連続での入賞で、悪天の三条工は異名は定着してしまった。

C L 佐藤 大地  
高野 雄一  
小林 怜央  
稲垣 穂高  
監督 渡辺 伸樹  
視察 吉田 光二

平成 11 年 岩手大会

団体男子

8 位



八幡平、早池峰山、七時雨山を会場に開催。当初予定していた岩手山は火山活動が活発になったため七時雨山となった。開会式に来られる皇太子殿下と妃殿下が岩手山登山を楽しみにしておられたとのこと。

山も良く、天候に恵まれ、大会運営も新潟大会のモデルにさせてもらったほど素晴らしいものだったが、自然保護団体からのクレームの処理に大会本部はご苦労された。

早池峰山では、登山道脇にビデオカメラを設置して、山小屋からは望遠鏡で監視するという始末。「自然保護」とは…と、考えさせられた大会だった。

A隊に出場して8位。天気が良すぎたか？でもベスト8。

宇佐美先生の大会デビュー。

この年から吉田は審査員を担当することになった。

CL 小林 怜央  
原 卓史  
稲垣 穂高  
山浦 隆法  
監督 渡辺 伸樹  
視察 宇佐美 博康  
審査 吉田 光二

平成 12 年 岐阜大会

団体男子 1 2 位



槍ヶ岳、双六岳を中心に北アルプスで開催された。

会場山域は魅力的で、多くの高校生が合宿に入っていた。

本校も珍しく事前に夏山合宿でコースを踏査したが、その時の読図ミス地点が大会で出題されて減点。ヤブヘビとなってしまった。A隊 12 位。

天候も心配されたが、稜線は寒く、合羽着用で槍穂に立った。

宇佐美先生監督デビュー

C L 外山 進一  
早川 潤一  
田中 拓也  
佐野 恵介  
監督 宇佐美 博康  
審査 吉田 光二  
本部 藤田 善思



平成 13 年 熊本大会

団体男子 17 位



阿蘇山系の高岳、根子岳で開催。

心配された火山活動は落ち着いていたが、天候に恵まれすぎて登山一日目はダウンするパーティが続出。大会として、急きょ、出発前にサプリメントドリンクを飲ませるという強制給水を実施した。

天気図で満点をとるなど健闘したがA隊 17 位。

C L 田中 拓也  
佐野 恵介  
近藤 禎一  
五十嵐 浩紀  
監督 宇佐美 博康  
審査 吉田 光二  
本部 藤田 善思

平成 14 年 茨城大会

団体男子

3 位 (銅メダル)



平成14年度全国高校総体登山大会 2002.8 / 2～6

大子町奥久慈の山を会場に開催。

3年生1人、2年生3人の大会経験者なしの新しいチームで臨んだ。

開会式には3回生の渡辺五郎さんが福島から駆けつけてくださり、市中パレードにも追っかけてして熱烈なる激励をいただいた。

山は低いがアップダウンの多いコースで運営は遅れに遅れる。

さらに天候も悪く天場に落雷するなどハプニング続出の大会となった。

となれば、三工山岳部の出番とばかりに3位に入賞、銅メダルを獲得して渡辺先輩の激励に応えることができた。

CL 森田 豊  
平田 一也  
長谷川 拓  
阪内 優也  
監督 宇佐美 博康  
審査 吉田 光二  
本部 藤田善思



平成 15 年 長崎大会

団体男子 25 位



昨年のメンバー 3 人を擁して臨んだ大会。

山は普賢岳を中心に開催。

台風来襲で開会式はフロアにベタすわりで簡潔に済ませて道路が通行止めになる前に入山。炊事も中止して弁当を配給して避難施設で宿泊する。

悪天の三条工を台風が嫌ってか、台風の直撃は避けられ、登山行動は予定通りこなすことができた。

A 隊 25 位。「花は二度咲かない」を実感した。

C L 森田 豊  
平田 一也  
長谷川 拓  
武藤 隆太  
監督 宇佐美 博康  
審査 吉田 光二  
本部 藤田 善思

平成 16 年 島根大会

団体男子 21 位



校名が変わって最初の大会。

7・13 水害で学校が壊滅的被害をうけて出場が危ぶまれたが、幸い装備チェック中で2階に上げていたために実害は計画書のみ。選手の自宅も実害はなく計画書を作り直して出発。三瓶山、琴引山、大万木山を会場に開催された。

水害見舞い御礼の横断幕を作って開会式で掲げて全国の山仲間に感謝の気持ちを伝えた。開会式は雨のために屋内になったが、登山行動は好天。

A隊 21 位の成績だった。

大会から帰ってからの部室、学校の復活に向けた部員たちの働きぶりに、彼らこそ何物にも代え難い財産であると感じた。

C L 齊藤 圭太  
武藤 隆太  
佐藤 智哉  
蝶間林 誠  
監督 宇佐美 博康  
審査 吉田 光二



# 「お見舞いありがとう」

豪雨被害の  
新潟県選手  
感謝の横断幕掲示



見舞金のお礼をつづった横断幕の前で、勝部一仁副委員長(左)らと握手する新潟県の選手たち(大田市大田町、市総合体育館)

豪雨の猛威を知る島根、新潟両県民が、高校スポーツの祭典でエールを交わした。二日に大田市総合体育館であった中国04総体(インターハイ)の登山競技開会式

で、島根県の競技団体が、七月の豪雨災害の見舞金を受け取った新潟県選手団が、感謝の横断幕を掲示。「見舞いを励みに、郷里に明るいニュースを持って帰る」と誓った。

被書に遭ったのは新潟県三条市にある新潟県中央工業、三条の両校。登山競技の選手八人は自宅こそ難を逃れたが、川の決壊で床上浸水に見舞われた校舎から泥を運び出す作業に追われ、練習は中止に追い込まれた。

テレビに映し出される豪雨のつめ跡。「何かしたい」と手を差し伸べたのが、一九八三年に島根県西部を襲った58水害の記憶が脳裏に刻まれている島根県高体連の登山専門部だった。

二十一年前のインターハイでは、水害で登山競技に必要な装備を水に流された島根県代表の益田高が周囲の高校から備品

を調達。仲間の協力で苦難を乗り越えて出場を果たした。

登山専門部は七月二十一日、山を愛する競技仲間の出場と復興の願いを込め、新潟県の両校へ見舞金を一万円ずつ郵送。新潟県央工では早速、自宅が被災した一年生部員に手渡した。

開会式の直前、新潟県選手団が「お見舞いありがとうございます」と書いた幅四尺の横断幕を掲示。県央工の斉藤圭太選手(18)は「支援をもらって奮起した。最後まで歩き抜こう」と対面した島根県選手に語り掛けた。

謝意を告げられた専門部の勝部一仁副委員長は「出場辞退にならなくて良かった。故郷と家族を励ますため、力を発揮してほしい」と固く握手し、上位進出を目指すよう激励した。

平成 17 年 千葉大会

団体男子 14 位



君津市元清澄山を中心に、大会最低標高の標高 300m 台の山々で開催された。  
低山に黒潮の影響もあって、暑いうえに湿度も高く、おまけに雨も降って辛い大会だった。

ルートは東大の演習林も歩いたが、山ヒルが大繁殖していて、その対策として塩水スプレーを作ってスパッツ等にかけて歩いた。おかげでヒルの害は防げたかどうかは別としてファースナーが錆びてしまった。

A 隊 14 位。今井先生が大会デビュー。

C L 波塚 哲也

岩崎 一樹

岡村 和哉

川村 健太

監督 宇佐美 博康

視察 今井 直樹

視察 吉田 光二

平成 18 年 奈良大会

団体男子 14 位



世界文化遺産となった山上ヶ岳、大普賢岳、大台ヶ原を会場に開催された。山は深く修験者の基地、洞川温泉街の江戸時代に戻ったかの様相は一見の価値がある。さすがは文化遺産である。

A隊 14 位。今井先生、監督デビュー。

50 回大会の記念すべき大会だったが、監督の 1 人が行方不明になって登山行動は中止され、監督は翌朝無事を確認できたが、大会史上に汚点を残してしまった。

C L 岡村 和哉  
川村 健太  
川村 浩貴  
岡田 直史  
監督 今井 直樹  
視察 吉田 光二



平成 21 年 兵庫大会

団体男子 19位



顧問は石川先生、和田先生と全く新しい体制で指導にあたり、部員不足から2年間の空白があったが、3年目にして見事に復活。

大会は氷ノ山を中心に大会は開催された。ショボ雨で合羽を着るが暑くて苦しめられる。顧問2人とも初めての大会ということで下見をして本番に臨んだ。

A隊19位。

復活大会であったこと、選手・顧問共に初参加であったこと、県央工山岳部の復活を全国にアピールできたなどなど、意義のある大会になった。

和田先生、石川先生インターハイデビュー。

CL 森田 恵太  
山崎 丈輔  
大山 清史  
小林 成行  
監督 石川 恵子  
視察 和田 正

平成 22 年 沖縄大会（鹿児島）種目縦走 5 位（入賞）



この年に入部した生徒を新潟大会にむけて準備が始まる。

沖縄大会の年にあたるが、代わって鹿児島が引き受けて霧島での大会となる。

韓国岳、新燃岳、中岳、御鉢と霧島連山を予定していたが、大会前に新燃岳が噴火してコース変更。だが、一部の変更ですませることができた。

3年生2人に1年生2人でチーム編成し、C隊に出場して5位に入賞する大健闘。新潟大会に夢を膨らませるステップとなった。

なお、C隊はこの年をもって廃止される。本校のインターハイデビューが昭和61年の山口大会でC隊5位。最終の年もC隊5位と、C隊を締めくくって見送ることになった。

C L 山崎 丈輔  
大山 清史  
福原 拳太  
波塚 嵩宏  
監督 石川 恵子  
視察 和田 正



平成 23 年 青森大会

団体男子 17位



新潟大会要員が2年生になった。昨年の選手は外して選手層を厚くすることを考えてチーム編成。

大会は東日本大震災を乗り越えて、八甲田山、岩木山で開催。大会準備が大変だったことは、送られてくる文書からも良く読み取れた。とにかく、安全に大会を成功させてほしいと参加準備にあたる。

大会中は風・霧雨。この年からはじまった「チーム行動」の時間測定に大会は揺れ動き、審査を巡る議論がまた巻き起こってしまった。

A隊に出場して17位。来年にむけてバネを圧縮である。

小柳先生インターハイデビュー。

C L 高橋 将汰  
佐藤 汰紀  
難波 翔太  
藤田 一馬  
監督 石川 恵子  
視察 小柳 徳之

平成 24 年 新潟大会

団体男子

1 位 (優勝)



時はやってきたが、県大会を突破しなければならない。まずは県大会選手として、高橋将汰、波塚崇宏、難波翔太、藤田一馬でチームを作り出場権を獲得。

全国大会には新たに競わせてチーム再編成をする。良い生徒がいるからできる、贅沢な話である。

大会は苗場山、平標山、三国峠の山系で、OB14名の役員参加を得て行われた。

結果はA隊優勝！

役員参加のOB、同期・先輩の姿を見に来た部員の前で、晴れがましいこと。

これが優勝なんだ！！

CL：高橋 将汰

波塚 崇宏

藤田 一馬

佐藤 汰紀

監督：石川 恵子

旗手：福原 拳太 高橋 晃浩 難波 翔太

本部役員：吉田 光二 和田 正 宇佐美 博康

講師：藤田 善思

登山隊役員：齊藤 文比古 平出 厚 齋藤 満 菊池 哲明 小柳 徳之  
(役員は本校関係者、元顧問のみの記載)

OB 支援隊員：斎藤 勳 阿部 孝幸 石村 統 廣瀬 守彦 佐藤 大地  
高野 雄一 小林 怜央 森田 豊 齊藤 圭太 武藤 隆太  
蝶間林 誠 岡村 和哉 川村 浩貴 川村 健太 (卒年順)



# 平成24年度全国高等学校総合体育大会 第56回全国高等学校登山大会 報告書

期 日 平成24年8月7日（火）～11日（土）  
会 場 新潟県湯沢町  
平標山コース  
苗場山コース  
三国峠コース



新潟県央工業高等学校山岳部  
三条市東本成寺13-1  
TEL0256-32-5251

## 8月5日(日) 県央工業高校出発。湯沢へ。

9:47 学校発  
13:05 湯沢カルチャセンター着・受付  
14:40 湯沢グラウンドホテル着  
22:30 就寝

出発準備していると、斎藤OB会会長や和田先生が激励して下さり、スイカの差し入れまで頂いた。気合いが入る。監督の車で学校を出発。途中浦佐の毘沙門堂にお参りし、「いざ出陣」の気持ちで湯沢カルチャセンターに向かった。

宿舎の湯沢グラウンドホテルへの道中、行動食の入れ替えをしようとコンビニへ。なんと湯沢のパンは品切れ状態！店を回り、事前踏査で何度かお世話になったスーパーNoguchにも立ち寄るが…。結果、塩沢まで足を伸ばして行動食・飲み物をゲットした。現地調達は、要注意…と感じた。

ホテルは4人部屋。塩素系温泉は気持ちよく、夕食はおいしく、幸せでした。じっくりと勉強をし、気持ちよく床に入った。

## 8月6日(月)

### 監督リーダー会議。

6:00 起床  
15:30 監督リーダー会議  
17:18 湯沢グラウンドホテル着  
23:00 就寝

午前中ホテルでひたすら勉強。昼前にホテルを出発し、昼食をとりながら、湯沢カルチャーセンターへ向かった。監督リーダー会議のあと、CL高橋の選手宣誓の直前練習に立ち会った。少し緊張気味のCL。明日頑張れよ。

ホテルでの夕食、宿泊している高校全員初顔合わせ。お風呂では千葉東高校や松本県ヶ丘高校と一緒にだった。リラックスした雰囲気が漂っていた。



## 8月7日(火)開会式、隊編成、苗場プリンス特設幕営地入り

6:30 起床  
8:12 宿舎発  
10:00 開会式  
11:00 登山隊編成  
12:00 審査  
13:30 コース隊編成  
14:04 バス出発  
14:40 苗場プリンスホテル着

ホテルの方たちに見送られながら、宿舎を出発。

カルチャセンターに入り、学校ごと指定された場所にザックをデポする。開会式直前に審査員がデポの状態をチェックしていた！地元小中学生の「子供雪下ろし太鼓」のアトラクションのあと、少し間があって、開会式が始まる。CLの選手宣誓、どうどうとしてすばらしかった！開会式のあとCLはニコニコしていた。これで審査に気持ちよく入っていける！と思った。

バスに乗車し、移動。バスを降りた駐車場から苗場プリンスホテル特設幕営地への通路途中で、入場の様子を審査員がチェックをしている。もう、徹底的に審査されていると思った。気を引き締めていこう。幕営地内で引継式、設営審査の後、交流会。交流会では口べたなSL波塚がよくしゃべる。調子がいいぞ！

装備チェックの内容はツェルト、ラジオ、裁縫道具、予備食、医薬品(体温計、消毒薬、三角巾)だった。全く問題なし。

今日の審査無事こなせたと思う。また、明日だ！





## 8月8日(水)行動第1日目 平標山コース

- 3:30 起床
- 5:00 引継式
- 6:00 平標駐車場発
- 10:00 平標山山頂
- 13:00 平標駐車場着
- 14:00 苗場プリンスホテル着 講演
- 20:00 消灯

朝食後、テントを出てみると、周りにはまだテントが立っていたが、早めに撤収に入る。芝生なので整地がたいへんだった。今日の行動はメインザック。青森大会から1年間鍛えてきた体力を発揮できれば大丈夫。県央工は4班。駐車場を出発し、いつもの通り先頭の SL 波塚のコールで行動する。隊行動が1677Mの休憩地点から林道出合まで班行動になり、4班が先頭だった。平標山山頂には一番乗り。林道出合での大休止、サンプリングが冷たくてありがたかった。

装備点検は時計、計画書、細引、コンパス。地点確認5カ所

ご褒美ということで、クーリッシュが配布になった。幕営地は涼しく、凍える感じがたまらなかった。実は前日の夜は幕営地そばで花火、ライブがあり寝付きが悪かったのだが、今夜は打って変わって静かな夜。ぐっすりだった。



## 8月9日(木)行動第2日目 苗場山コース

- 3:30 起床
- 5:00 引継式
- 6:40 祓川駐車場発
- 10:04 苗場山山頂
- 15:05 ドラゴンドラ山頂駅着・  
ドラゴンドラ乗車
- 16:37 苗場プリンスホテル着・引継式
- 20:30 消灯

今日は祓川駐車場からかぐら第一高速リフトまでのチーム行動。昨年青森での経験を活かして、今年は何より県央工ペースで歩き通すことを一番に練習をしてきた。スタート地点の混雑に慌てることもなく、SL がチームを引っ張っていった。結果は22位でゴール。制限時間90分には全く問題なかった。順位ではなく、自分たちの歩行ができてよかったと思う。

ドラゴンドラの空中散歩を満喫。降りたところで当然のように審査員が待っていた。装備審査で両具の記名を点検された。本日は設営審査はなく、何となく幕営地の空気がまったりとしてきたけれど、あと1日あるぞと気を引き締めました！



## 8月10日(金)行動第3日目 三国峠コース 解団式

- 4:00 起床
- 5:30 引継式
- 6:30 三国峠登山口発
- 10:00 三角山
- 13:30 平標山駐車場着・解散式
- 14:41 湯沢グラウンドホテル着
- 22:30 就寝

いよいよ最終日。朝食は赤飯。もちもちしていて、気が引き締まる。そして味噌汁はやや加熱しすぎて、熱かった。気を抜かないぞの戒めと思いながら、ありがたく食べた。

引継式で、今日の審査は三国山トラバース登山道出合までと連絡あり。いよいよ、最終日がスタートする。がんばるぞ！

今日はメインザック、隊行動。三社神社までに読図ポイント1カ所で地図と記録を神社で回収されたけれど、三国山分岐前の階段やトラバースで歩行をチェックする審査員を何度も見た。最後まで気は抜けない。審査終了の休憩地点を過ぎ、三角山通過、大源太山分岐のあたりから何となく気持ちが、名残惜しいな…、いよいよラストだ…。の気持ちになってきた。

平標山駐車場に到着し、解散式。A隊隊長の笛木先生の「無事に行動を終了できたのはみんなの力のお陰です。ありがとう。」の言葉にグッときた。皆さん本当にお疲れ様でした。

ホテルの布団でぐっすり寝た。



## 8月11日(土)閉会式、県央工業高校へ

- 5:30 起床
- 8:13 宿舎発
- 10:00 閉会式
- 12:32 カルチャアセンター出発
- 15:08 学校着

閉会式のあと、ホテルに戻り、優勝の報告。本当にお世話になりました。

学校に到着すると、たくさんの方が待っていてくれた。校舎前で優勝報告会。大きな声で校歌を歌い、胴上げされた。

たくさんの人たちの力があって優勝できたをつくづく思います。本当にありがとうございました。





## 選手の感想

### CL 高橋将汰

入部したばかりのときは全国大会、新潟県で開催される大会と言われても、ピント来てないところがあったように思う。しかし、1年生の時の鹿児島大会で自分の作成した断面図の間違いで減点されながら、チームが五位になり、少しずつ自分の意識が変わっていったように思う。自分はリーダーに名乗りを上げ、2年生での青森大会に選手として出場するが、しかし、他のチームに圧倒され、記録もまともにとれずに終わってしまった。最後の年、新潟大会にすべてをかけようと集中する決意がいよいよ自分の中で固まったのだと思う。大会まで指導をして下さった先生方をはじめ、いろいろな励ましをして下さった皆さんのお陰で頑張ってくれたと思っています。本当にありがとうございました。

### SL 波塚崇宏

1年生の頃から、3年生になると地元開催だと言われてきた。でも、入ったばかりの自分たちは本当の意味に気付くわけがない。でもその意味を理解し始めたのは2年の後半からだと思う。そして、自分たちはやるしかなかったし、やる気になった。いよいよ大会になりメンバーは3年生全員と先生たちで決めた。力による和を目指したメンバーは、自分が一番一緒に登りたい山登りたいメンバーでもあり、またライバルでもある厳しい仲間だった。希望通りのメンバーだったと思う。大会が始まると、地元開催って楽しく、不思議だなと思った。開催県ということで、多くの初対面の人と話が出来たり、見慣れた山に列をなす大勢の選手たちや、幕営地のたくさんのテント、いつもと違う感じが不思議でした。そして、閉会式。学校の名前が呼ばれたとき、お世話になった人がバーと出てきて、感極まって涙が止まらなかった。本当にありがとうございました。

### 藤田一馬

1年生の頃、体力0で挑んだ新人歓迎登山の白山でバテて、「もう二度と白山には登らない」と断言していた自分が夏山で山に対する気持ちが変わった。ハヶ岳の登山口に着いたときに吸った澄んだ心地よい空気、夕映えする最高峰の赤岳、無数の星々。そして山に対する姿勢が変わったと思う。青森インターハイで、体力不足や読図経験のなさなど、基本的なことが足りなかったのではという結論に達し、翌年の新潟大会までに克服しようがんばった。大会に入るとメンバー全員が緊張感より大会を楽しむ雰囲気になっていて感じた。「二度と山に登らないと言っていた奴が表彰台の上にいる」と和田先生に言われて、涙が出てきた。天気図 500 枚以上書いた成果は実ったと思う。

### 佐藤汰紀

登山の後、発熱欠席の体力しかなかった自分が、鹿児島大会の好成績を目の当たりにして、我々の部活は賞を狙って、本当に手に入れられる活動なんだと感じた。やっと日々の練習やミーティングルームの歴代OBたちの写真の意味を考えるようになり、そこから自分は変化したと思う。今回の大会では、先生方やOBの方々、新潟県役員の皆さんの力が本当に大きかったと思う。大会中に微笑みかけてくれたり、挨拶してくれたり、リラックスでき、自分たちの実力をフルに発揮できたと思う。これまで支えられてきた立場から、今後は支える側で山岳部と関わっていきたいと思っています。

## 旗手の感想

### 難波翔汰

自分は新潟で開催された「かがやき総体」に、選手ではなく旗手として参加させて頂いた。旗手とは隊の先頭を旗を持って歩くこと役割である。旗手として稜線を歩いて振り返ったとき、自分の後ろに全国から来た選手が続いているのを目の当たりにして、最後まで歩かなければならないという責任感と、そのなかなか見れない景色を楽しんだ。

大会に向けては全力で4人のサポートをしてきたつもりだ。その結果見事に4人は優勝を果たしてくれた。自分を含めて支えてきてくれた家族や顧問の先生方、OBの皆さんには本当に感謝したい。

### 高橋晃浩

旗手は選手たちの先導、ペースメーカーとしての役割を担い、ペースが適切でないと、最後尾の選手たちが走ってしまうことになるので、はじめは勝手がわからず難しかった。

最終日になり、ようやく自分なりに掴めるようになり、だいぶリラックスして旗手を務めさせてもらった。

自分はメンバーに入ろうと鍛えてきたが、残念ながら体力の差は縮まらなかった。メンバーになれなかったとしても、自分にやれることがあると考え、リペアや部室の道具整理などでサポートを全力で行ってきた。閉会式の発表を聞いたとき頭の中が一瞬真っ白になり、本当にほっとしたし、うれしかった。

### 福原拳太

いろいろな県から強豪チームが、そして県央工の先輩たちも集まり、とても緊張しましたが、旗手として絶対に成功しようと強い決意で大会に臨みました。新潟大会での旗手を務める機会をくださった顧問の先生には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。旗手としての山行はやはり大変でしたが、ドラゴンドラに乗り、すばらしい景色を見ることができたり、選手の誘導など手伝ったり、貴重な経験をさせてもらったと強く感じています。

優勝という最高の形で大会を終えることができ本当によかったです。

### 監督 石川恵子

現地入りする前日、私は「順位は何になるかわかりませんが、“もっとこうすればよかった”とか、“もっとここを指導すればよかった”ということはひとつもありません。私の持っているもののすべてを伝え、考えられるすべてを指導、実践してきました。」と言い切りました。

そして、「優勝」という結果で幕を閉じられたことに、深い喜びを感じ、こんなにも熱く没頭できたひとときがいとおしく思われます。ただただ突っ走っていく私にどれだけの方が手を差し伸べ、助けて下さったことか。心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

## OB支援隊員の感想

新潟インターハイに支援隊員として参加したOBの感想です。

斎藤 勳 (S41 年卒)

阿部 孝幸 (S54 年卒)

石村 統 (H4 年卒)

廣瀬 守彦 (H7 年卒)

佐藤 大地 (H11 年卒)

高野 雄一 (H11 年卒)

小林 怜央 (H12 年卒)

森田 豊 (H16 年卒)

斉藤 圭太 (H17 年卒)

武藤 隆太 (H17 年卒)

蝶間林 誠 (H17 年卒)

川村 浩貴 (H19 年卒)



## 齋藤 勲 昭和 41 年卒

### 「2012 北信越かがやき総体」の夏

若い OB 達と一緒に登ったインターハイの夏はかけがえのない時間だった。そして選手たちは優勝を勝った。宝石のように輝く今年の夏の思い出を記してみよう。

#### 1) 支援隊員の募集 「人員不足の時は私が応募します」

2011 年 9 月 14 日、吉田先生への返信メールから、

「・・・暑いさなかのインターハイのサポート要員となると、やはり若い人の出番でしょう。ただ本番の日程が平日の為、サラリーマンは 5 日間もの休暇取得が難しいものと思われます。ㄇ切日まで必要人員が揃わないときは私が応募しますので、頭の片隅に置いておいて下さい。・・・」

インターハイ支援隊員募集で不足人員が出た時の為にと、吉田先生宛にメールしたものである。しかし、いの一に 64 歳の老体の私が支援隊員としてエントリーされてしまった。

「シテヤラレタ。」

ただ、私自身は本校 OB が卒業後、山からすっかり離れてしまい、社会人になって登山や山スキーをしている人が一握りの限られた者だけなのがとても気がかりであった。この機会に現在の高校山岳部の活動目標の一つであるインターハイというものの実態をこの目でしっかりと見ておきたかった。

果たしてインターハイは日本の岳人の養成に役立っているのだろうか？支援隊員としてインターハイを側面から手伝うことで何かが見えてくるであろう。

2011 年 12 月 3 日、支援隊員は最終的に 13 名が揃った。吉田先生の人徳というものであろう。

#### 2) 登山行動

##### ・2012.8.8 平標山（行動 1 日目） 「丸山医師はマラソンランナー」

昨日の開会式では本校選手隊の高橋 CL が立派に選手宣誓の役目を果たした。廣瀬 OB 会事務局長も開会式中アメリカから帰着し支援隊員は全員集合する。

朝からガスの中での登山となりそんなに暑くなく助かる。頂上付近は白山風露、細葉雛薄雪草、白山千鳥、下野草、姫シャジンなどが咲きお花畑になっていた。頂上手前から小雨が降り始める。

頂上から下山中、小雨に濡れた木道で一名の監督が転倒し怪我したとの伝言があり監督団が停止する。

監督団を先導する森田君からも無線連絡が入る。支援隊副隊長の役目の私は最

後尾を歩く位置取りである。現状確認の為、前方へ急ぐ。現場へ到着する前に隊列が動き始めた。負傷者は自力で歩けるらしい。

随行の丸山医師の診断では手の指の脱臼とのことである。明日からの行動も支障ないとの話で安心する。

丸山医師は豪放磊落な性格らしく、説明も的を得て分りやすかった。マラソンランナーでもあるとのことですっかり仲良しになった。

### ・2012.8.9 苗場山（行動2日目） 「雲尾坂での交差を回避せよ」

13Kmほどの登降の長丁場の今日も昨日同様3時起床、5時引継式、5時20分バス出発で行動する。今日も時々ガスに包まれ快適な登山が出来たが、問題は頂上直下、雲尾坂で起きた。監督団は行動開始後、3回目の休憩をお花畑でとった。先導する森田君は、すぐに先に行く選手団に追いつくとの思いがあり少し長めに15分の休憩時間とした。

悲劇はそのあと、雲尾坂を登っている時に笛木コース隊長の無線連絡で始まった。「先頭の出発時間が近づいています。雲尾坂での選手団と監督団の交差を避ける為、個々の間隔を詰め早めの頂上到着をお願いします。」そんな状況を想定していなかった私は笛木隊長の指示をそのまま大声で監督団に伝えた。するとどうであろう、今まで烏合の衆のようで非協力的な者が若干名いた監督団が頂上に向かって雲尾坂を個々の間隔を詰め急ぎ登り始めた。何という変わりようであろうか。私は最後尾の監督と3m開いた間隔を最後まで詰められなかった。いつも高校生の部員と行動を共にしている監督の強さを思い知らされた。脱帽。

再び笛木隊長から「もうじき選手団の出発時間です。雲尾坂をいくらかも登っていないなら、交差を回避する為、お花畑まで戻ってそこで待機して下さい。」その隊長の指示を受容すれば必死に頑張っ

#### 苗場山頂上湿原



ている監督達は激怒するであろう。私は急登に喘ぎながら答えた。「私の高度計で2050mを越して、頂上へはあと10分程で到着するかと思います。このまま頂上まで登らせて下さい。」

私の要請は受け入れられた。お花畑から急いで45分、10時25分頂上に到着する。その5分後、選手団の先頭の旗手達（本校3年生3名）が出発していった。そして緊張の糸の解けた監督団の問題児2名は元の状態に戻った。

その後、ドラゴンドラへの下山中、千葉の選手の具合が悪くなり、丸山医師の点滴の手当てを受け自衛隊員に背負われて下山した。

### ・2012.8.10 三国峠、三角山（行動3日目） 「石川監督、悠然として動かず」

前夜の反省会で森田君と私から2名の監督の不行跡についての発言があり、バス乗車前、監督団を集め笛木コース隊長からやんわりと注意が伝えられる。「・・・支援隊員も人間なので非協力的な態度やマナー違反が続くと感情的にもなる。どうぞ協力願いたい。・・・」

99%の先生は真面目で情熱も常識もあり一生懸命なのに、ほんの2名の監督の為にこのような注意をしなければならぬとは誠に残念なことであった。このようなことを無くす為、

・監督対応の2名の支援隊員は、抑えを効かせる意味で高校教師が当たる。

・選手団と同様に班編成し、その中から班長を委嘱したうえで班単位で行動してもらおう。  
ようにすればマナー違反、非協力的な態度は出にくいのではなからうか。一考してもらいたいものと思う。  
また現在は、監督団はコース隊の中でお荷物的な扱いのようだが、コース隊の構成の重要な一部と考えればまた違った発想も出てくるのではないだろうか。

三国峠で左折し三国山の山腹をトラバース、三角山に登るあたりから今まで薄っすら立ちこめていた霧もなくなり晴れて気温上昇し暑い一日になる。平標山の家で、〇〇焼けした小柳総監督の激励を受ける。開催県の総監督も激務のようだ。前日、前々日のような事故、体調不調者もなく全員元気に平標登山口に下山し解散式が行われる。

最後に読図テストの答案が選手に返却された。他県の監督と違い、一人その場を悠然と動かない本校の石川監督の姿が際立っていて印象に残った。やるべき事はすべて事前にしてある。結果を見て今頃騒いでも仕方がないというスタンスなのだろう。



### 3)2012.8.11 閉会式 「老OBは涙が止まらない」

前夜、苗場プリンスホテルでの打ち上げで少し飲みすぎた。長岡工高の中村先生が反省会で私が述べた意見に賛同してくれたからだ。反省会で私は次のような参考意見を言った。「インターハイ登山のような競技登山は登山の中での特殊な一分野である。高校生にこれが登山の全てというような指導をされると、卒業後登山を継続するものは多くないだろう。登山のジャンルは幅広く岩登り、沢登り、山スキー、高所登山など楽しく心震えることが沢山ある。折に触れこれらを高校生に啓蒙して行って欲しい。」中村先生に賛同の握手をされ、酔いも手伝い思わずハグしてしまった。

表彰式が始まる。順位発表は6位から始まった。年初から今まで山岳部の山行に5回同行し、選手の成長具合を見ている私は6位以内入賞を確信していた。だが、なかなか県央工高の名前が呼ばれず2位修道高校までの発表が終わった。毎夕、引継式での答案返却時、監督のなかで只1人その場を動かかなかつ



た石川監督の際立って悠然とした姿が頭の中に浮かんだ。「1位になったのだ。」私は発表の前に1位を実感し臉が熱くなるのを感じた。

吉田先生の花道を作ると言った昨年の「岳人」の記事、1年生の時から新潟インターハイへの出場を宿命とし努力してきた3年生、石川監督を筆頭にした顧問の熱血指導、いろいろなことを思い出し涙腺が緩みっぱなしになった。これはまずいと思いながら、ふと隣の若いOBを見ると目から涙が溢れそうになっていた。涙が出るほど感動しているのは私だけではなかった。私はほっとしながらバンダナで涙を拭いた。

吉田先生の意気に感じ、支援隊に参加しながらも膝を痛めてしまった若いOB3名。治療に専念しているだろうか。膝痛や腰痛はくせになり易い。どうぞ、くせにならないように完治させ、また山に戻ってきて欲しい。そして昔のように山への情熱を再燃させて欲しい。

卒業してゆく3年生は、山岳部で山へ登りながら遠くにいろいろな山を見てきた。今夏の夏山合宿でも



剣、白馬、五竜、鹿島槍、針ノ木、穂高、槍、白山などが見えた。皆、個性的で素晴らしい山々だ。今後は自力で登ってみて欲しい。山岳部で培われた力が更に発展してゆくことと思う。そして将来、君達が8000m峰へ挑むことがあれば、私はよろこんでカンパに協力するだろう。気が早いことを思いながら、老OBの今年の楽しく暑い夏は終わった。

(1回生)

## 阿部 孝幸 昭和54年卒

お疲れ様です、今上海にいます。

インターハイの後、出張続きで山どころではありません。でもインターハイ役員で参加して久しぶりに登山の基本を思いださせてくれる高校登山大会でした。

私は社会人の山岳会に入っていますが、やはり基本は高校生登山にあると、感じました。

これからも自分なりの山登りを楽しみたいと思います。

三条工業高校 14 回生、現在 52 才です。

## 石村 統 平成4年卒 インターハイ役員と参加して

平成24年度全国高校総体体育大会登山大会の役員として、参加でき良い経験をさせていただきました。役割は、A隊の支援隊員と云うことでしたが、全国の選手たちとともに登山ができたことは良い思い出にもなりました。

私は、宮城と静岡のインターハイに出場させていただきましたが、役員としての仕事は裏方なのでとても興味がありました。

実際、経験してみているいろいろな役割があり、多くの先生方やOB・OGの方々が参加して支援していたことを始めて知りました。

このような経験ができたことを誇りに思います。

大会期間は、天候にも恵まれ、苗場山、平標山、三国峠山域では暑いくらいの登山になりました。

そのような中で、母校の県央工業も大会で優勝できたことも、大変うれしく思います。

閉会式では、県央OBの皆が優勝「新潟県・・・」と云うところで、「おおお」と学校名を言う前にフライングしていたのも印象に残りましたが。。。

また、このような機会があればぜひ参加させていただきたいと思います。

役員として参加したことにより、最近、じじとばば、娘2人と登山をするようになり、良いきっかけになりました。

今後は、OBで年1回くらいは集まって、登山をしてみたいですね。

最後に、優勝した県央工業の選手諸君、おめでとうございます。

吉田先生、山岳部の監督・顧問として長い間お疲れ様でした。まだまだ元気でいてください。

今年のOB会が楽しみです。お手伝いしますので、盛大に行いましょう。

県央（三条）工業山岳部 27 回生

## 廣瀬 守彦 平成7年卒 北信越かがやき総体登山大会 支援隊へ参加して

県央工業高校選手のみなさん本当に優勝おめでとうございます。OBのひとりとして本当に嬉しいです。私は今大会支援隊員として参加させて頂きいろんな事を体験・経験させていただきました。

●県央工業高山岳部（三条工業高）OB 支援隊員のチームワークと母校を思う気持ちが再認識させていただいたこと。

斎藤会長をはじめ諸先輩方、後輩たちと今まで以上にコミュニケーションが取れ、みんなが大会を成功させようと一丸となれたこと。

●救護支援隊員として参加し3日間ドクター、看護師のサポートができたこと。

山中で実際にあった救護現場で経験したことは自分自身にとってとても良い経験になりました。

怪我や体調不良は誰でも起こること、それを回避するための知識、体力、体調管理、装備の大事さを痛感しました。今後自分の山行に当てはめていきたいと思います。

今大会に役員として参加できて本当に良かったです。県央工業高山岳部（三条工業高）を誇りに思います。一番は、選手みんな感動をありがとう！おめでとう！

三条工業高 30 回生

## 佐藤 大地 平成 11 年卒

昨年 9 月に吉田先生からのメールで、インターハイ役員を募集していることを知った。

自分は卒業してからほとんど山には登っていなかったし、登る自信も無かった...だから自ら役員に志願する気も無かった。

2 週間後、再度、吉田先生からのメールで、役員が集まっていないことを知った。

少し考えて、ある男に電話をした。

「役員。やらないか?.....」

次の日、その男と酒を飲みながら話し合った。仕事のこと、体力のこと、不安なことはいっぱいあった。その男は相変わらず弱気だったが、結局、お互い同じ思いだった.....。

スグに吉田先生に二人とも役員に志願することを伝えた。その後は不安な気持ちを隠すかの様に、高校時代の思い出話で酒が進んだ。とてもうまい酒だった。

それから準備をすすめて行くうちに思うようになった。「どうせやるなら、良い仕事してやろう。全国の高校生に、そして自分に、良い思い出を残せる様に...」

自分が現役の頃のインターハイの資料を、押し入れから引っ張り出し、ふと、思いだそうとするが、ほとんど記憶に残って無い。14 年も前のことだから仕方ないのか...

いや、当時は全国大会というプレッシャーで緊張して、記憶がほとんど残って無いのだ。

だからこそ、今回のインターハイは、なるべく記憶に残る、思い出になるインターハイにしよう。

自分にとっては二度目のインターハイ。思う存分楽しむことにした。

そして 7 月の事前研修会。

少し心配だった体力も、登ってみれば問題無いことに気付き、山を楽しむことができた。

そして山を下りた後、みんなで飲んだビールが何よりうまかった。

この研修会では、個人的には山に登る自信を得たので良かった。

それと、二日酔いには注意しなければならない。。ってことも学んだ。

しかし工業OBとしては、膝を壊す人がいたり、登山靴が破損した人が二人もいたりで少し心配だった。

...が、一人はスグに山を下り、眩しい光を浴びながらも車を飛ばし登山靴を買いに行き、一人は近くの雑貨屋で赤く輝く長靴を買い、それぞれ次の日の山を難なく登りきった。さすが工業OBだと思った。

そしていよいよ大会本番。

丸一週間、仕事を休むこと。会社の上司は嫌な顔をしつつも、「ケガだけはするなよ！青春の続き、楽しんで来い。」と温かい言葉をいただいた。

その言葉で頭の中で引っ掛かっていたモノが無くなり、さらにインターハイを楽しもうと思えるようになった。

大会日程を見てまず考えたこと、研修会で学んだことを踏まえて、いつがたらふく飲んでも大丈夫な日か。。。

そんなことを考えつつ、実は少し緊張もしていた。

実際に大会が始まり、全国から集まった選手たちを見ると、14 年前の記憶がよみがえってきて、新鮮



でワクワクするような不思議な気持ちになった。

山行時は少しの荷物を、なんちゃってメインザックに入れて登る。何もなければ大勢で登る楽しい登山なのだ。何もなければ...

山行二日目。まさか昨年の優勝高校がリタイアするとは....

支援隊員として班から離れたチームを見守りながら隊長が来るのを待っている時、チームのメンバーは落ち込んだ様子だった。たまらず声を掛け、14年前の自分の話をした。それで彼等の気が晴れたかはわからないが、少しは役に立てたのでは？と思った。

...しかし、改めて登山の厳しさを教わった。

その後もリタイアしたチームのことが気にかかっていたが、閉会式の時、四人揃って出席していたので安心した。

閉会式。成績発表の時も14年前を思い出していた。

あの時、自分たちは6位でステージに上がったのはリーダーの自分だけだった。本当は四人でステージに上がりたかった。

そんなことを思い出しながら、優勝校の発表を待っていた。

「優勝、新潟県...」この瞬間に思わず立ち上がって拍手しそうになった。

その後続く「県央工業高校」の言葉を聞いた瞬間、泣いてしまった...

今大会では、県央工業高校は見事な成績で四人でステージに上がっていた。

自分たちの時と比べてしまい、羨ましく思えた。

式の後、リタイアしたチームのリーダーが来て挨拶をしてくれた。色々な思いがあって、泣きそうになった。

自分のかぶっていた役員用の帽子を記念に欲しいと言われ、こころよく汗臭い帽子を渡した。。

今回、この大会に役員という立場で参加できたことで、昔を思い出したこと。

あまり繋がり無かったOBとも仲良くなれたこと。

そして、これからまた山に登りたいと思うようになったこと。

たくさん得るモノがあった。

参加できたことに感謝します。

青春の続きをありがとうございました。

それと、今大会に参加したくても会社の都合上、参加できなかった人。

大会中に負傷して、登れなくなり悔し涙を流した人。

様々な人が居ると思います。

気持ちは多分一緒だと思います。これからみんなで山に登って、うまい酒を飲みましょう!!

## 高野 雄一 平成 11 年卒

平成 24 年度全国高等学校総合体育大会登山大会 第 56 回 全国高等学校登山大会の役員として参加したことについて。

昨年の秋、吉田先生から連絡を頂いて、いろいろと不安はありましたが 高校の三年間お世話になった山岳部、選手として出場した全国大会、そして恩師である吉田先生に少しでも恩返しできるなら お役に立てるならと思い大会役員として参加することを決めました。

大会本番では A 隊 8 班の支援隊員として行動させてもらいました。

現役以来の 3 日間の登山行動で体力的に不安はありましたが大会前の研修で平標山と苗場山は登っていたので何とか乗り切ることができました。

登山行動初日にアクシデントがあり支援の自分と選手で待機、行動という場面があり、無線のやりとりで自分が不慣れということもあり少しあたふたしてしまいましたが選手も体調が戻り無ことに班と合流できて良かったです。

登山行動最終日の解散式後にアクシデントのあった選手から 「あの時はありがとうございました。」と言ってもらい こんな自分でも少しは役に立てたのかなと 思いました。

大会を終えて、母校の県央工業が初の全国大会優勝という素晴らしい成績をおさめたこと。

そして役員の方々、全国から集まった選手達、県央工業 OB の皆さんと天気にも恵まれ 素晴らしい登山行動ができたこと。

また県央工業 OB の皆さんと年代をこえて交流ができ絆が深まったこと。

自分の人生にとってかけがえのない本当に素晴らしい経験をすることができましたことを感謝しこれからの人生にいかしていきたいと思います。

ありがとうございました。

## 小林 怜央 平成 12 年卒

大会役員の募集がライダーズ・イン・ザ・スカイに何度か載っていたのですが、誰か行くだろうと流して読んでいました。けれど、かなり後半になっても'人数が足りません'と書いてあったことや、佐藤先輩と高野先輩の名前があったことで、行こうと決意しました。

その後は先輩方に連絡して、装備の確認や買い出しをして準備は整いました。

大会前に研修会があり、一日目は打ち合わせで、二日目は苗場山、三日目は平標山でした。問題が発生したのが二日目の苗場山を登り下り始めてすぐでした。登山靴のソールが剥がれたのです。その時は針金で応急処置をして下山できました。必携パックの中にある針金は使うこと無く在学中は過ごしましたが、改めて必携パックの中身は必要なものだということを実感しました。二日目は近くの雑貨屋で購入した長靴で登りましたが、登りは軽くすいすい登れたのですが、下りは階段だらけのコースで、かなりヒザがいたくなりましたが、無事に研修を終えることができました。

そして大会当日になり、一日目は大会の行動予定の会議がありました。

二日目は開会式のみで登山行動はないため、明日のミーティングを行いました。自分の役割は二班の支援隊員で、生徒に何かあった時サポートする業務です。

三日目は平標山での登山行動で、何事も無く進んで行ったのですが、山頂からの下りの階段で、前回の研修の時と同じ痛みがでてきましたが、支援隊員が支援されるなんてとんでもない事態だけは避けるために気合を入れてくれました。下山後に隊つきの医者先生に見てもらったら、半月板損傷の恐れがあるといわれ、それからは明日までに治そうとヒザを冷やして過ごしました。

四日目は、登山は無理と医者に止められてしまい、大会本部の通信の手伝いをする事になりました。県大会で優勝する実力を持っている生徒たちばかりなので、登山行動が始まれば本部の作業は楽になるのかと思っていたら、A 隊 B 隊ともにトラブルがあり、本部と登山隊を繋ぐ通信は非常に重要なものだと実感しました。

五日目は中継地点での通信中継の手伝いをしていました。

役員としての役割も終わり、残りは閉会式となりました。県央工業が優勝、あまり役に立つことが出来なかったのですが、その場に立ち会えてきて良かったと思いました。

今回の大会で役員として参加させていただき、大会運営の大変さ、緊急時に使う装備の大切さ、日頃のトレーニングの重要性など色々と多くのものを学ばさせていただきました。この経験を無駄にしないためにも、これからはトレーニングをして万全の態勢で山に登りたいと思います。

最後に県央工業の優勝おめでとうございます！



## 森田 豊 平成 12 年卒

新潟インターハイを終えて

2012 北信越かがやき総体に行動支援役員として参加いたしました。

自分は監督支援として、各学校の監督の方々の先頭を歩くことです。

正直、役員の仕事よりも登山行動中、最後まで歩き通せるか心配でした。約9年ぶりの登山は緊張しました。

実際に登山行動が始まると、ペースもゆっくりで体力にも余裕があり山を楽しみながら登ることができました。ただ、監督の方々を50人も引き連れて行動するのはとても大変でした。人数が多い分歩くペースや指示などを考えながら登ることが一番疲れました。

登山行動をしながら、こんな大勢の人を引き連れて歩くなんて、まるで山岳ガイドだなと思ったりもしました。でも、二度と大勢の人を引き連れて登山なんてしたくないと思いました。

しかし、このインターハイに役員として参加させていただいたことで、役員として参加していた県央工業のOBの先輩、後輩、他の役員として参加していた方々と接することができ、とても楽しい登山生活を過ごすことができました。この場に参加でき、とても良かったです。

最後になりますが、このインターハイの登山競技を運営、支援された方々大変お疲れ様でした。

そして、県央工業山岳部のみなさん全国優勝おめでとうございました。

これを機会に、個人的に登山をしたいと思います。

## 斉藤 圭太 平成 17 年卒

当初、私は役員参加する予定ではありませんでした。大会開催の一週間前、学校へカンパを持って行った時のことです。石川先生、吉田先生に「丁度いいところに来た」と言われ、呆気にとられるうちに話がすすみ。色々ありまして、幸運なことに参加が急遽決定。

正直、部活を引退してから山に登ってなく、家中から現役当時の道具を引っ張り出し、足りない物は部の道具を借りて、参加しました。

支援隊として県央工業の選手と同じ4班に配置され、選手たちの後ろを付いて登りました。私がいちばん選手の近くにいたOBだったと思います。選手たちは余裕があり、山を楽しんでいるように見えました。さすがです。私は足がガクガクでした。4班は行動中にトラブルもなく、無事に行動を終えました。

私の8年越しの登山靴の靴底も、剥がれる事なく無事で良かったです。

OBの先輩、後輩、同級生や元コモの先生方と再会し、また役員の仕事を通し多くの人と交流がもて、とても楽しい時間をすごしました。

そして記念すべき優勝の瞬間に立ち会えたこと、どれも貴重な体験になりました。一生忘れることのない思い出と思います。

優勝おめでとうございます。

お疲れ様でした。

ありがとうございました。

## 武藤 隆太 平成 17 年卒

今回、新潟インターハイに支援隊で参加させてもらい生涯で一度あるかないかの経験をさせて頂きました。新潟でインターハイをやると聞いたのは、自分がまだ高校生の時で吉田先生からだったと思います。

その時は、まだまだ先の話しで実感が湧かず自分が支援隊で参加するとは思っていませんでした。

しかし、高校を卒業し就職してからあっという間に7年がたち気付くと新潟でインターハイが開催される年が近づいていました。

卒業してからもたまに後輩のトレーニングや設営練習に付き合ったり山行に同行したりとちょくちょく部活に顔を出していたせいかわかりませんが、新潟インターハイが近づくにつれて「自分も新潟インターハイに出てみたいなあ」と思うようになっていました。

そして、体力が落ちていてかなり不安でしたが支援隊員で新潟インターハイに参加させてもらうことにしました。

新潟インターハイは、天候に恵まれ大したトラブルや事故もなく全国の選手達と平標山、苗場山を登ることができ閉会式には県央工業の優勝の瞬間にも立ち合えると最高の大会でした。

高校の時に選手で出るインターハイとは違うインターハイを経験できたこと、またいろいろな楽しい思い出をつくれたこと今回新潟インターハイに参加して本当によかったです。

## 蝶間林 誠 平成 17 年卒

県央工山岳部のインターハイ優勝を飾った今大会の支援として参加させていただいたことを嬉しく思います。

久々の山行の上に厳しいコースでしたが、高校時代を振り返り、懐かしさを感じることができました。

来年の大分インターハイにも出場できるよう練習を重ね、良い結果を残せることを期待しています。

## 川村 浩貴 平成 19 年卒

今思えば、数年前に吉田先生が、「新潟の全国総体で OB に来てもらう」と言っていたのが始まりだったような。

当時は自分が参加するなんて全然考えていませんでしたし、もっと年上の OB が誘われるのかなと思っていました。ところが、全国総体の話を忘れかけていた去年の 8 月下旬、吉田先生から全国総体登山大会補助役員に参加しませんかとお誘いがありました。

あの時は誘いを受けてすぐに、選手として大会に出て 23 歳で今度は役員として大会に参加できるなんて滅多にできない経験だ！と思い、すぐに参加することを決めました。その後、社長に直接一週間休ませてくださいと言いにいったことを思い出します。直接休ませてくださいと言ったのは初めてで緊張しました。

それから一年後、今年の 7 月にあった役員研修会。自分は支援隊員として参加しました。久々の登山ということで道具があるか、ちゃんと歩けるかかなり不安でした。でも宿についてから久しぶりに先輩達に会って、四年ぶりに高校のとき一緒だったメンバーと登山できるのが嬉しくて不安なんてどこかに吹っ飛んでしまいました。二泊三日で苗場ルート、平標ルートと登りましたが、疲労感より同じ班や周りの役員との会話、久々の登山で天気が良かったので清々しさを覚えています。

研修会から半月後に本番を迎えました。1、2 日目は移動と開会式。全国の現役山岳部男子、女子を見て華やかだなと感じました。みんなカラフルなユニフォームで羨ましいなあなんて思ったり。3、4、5 日は登山行動。行動前日には毎回ミーティングをして、行動当日は支援隊として選手達の後を歩きました。ミーティングでは和気あいあいとしながらも気になった事を話あっていて、役員側にいる責任感みたいなものを感じましたし、行動中も常に無線機によるやりとり、問題が起こったときの対応など、初めて遭遇する経験が多かったように思います。6 日目は閉会式があり、県央工業高校が優勝。あの時は素直に「おおっ」と、思わず声をだして驚嘆しました。新潟開催で新潟代表が優勝したことは本当に素晴らしいと思いました。

今回、登山大会支援隊員として参加して班長、副班長、先輩方、他の役員、県央工業や他県の現役選手の方々との交流があり、とても貴重で有意義な時間を過ごせました。現役の時と違って審査がないから気軽に登山をしようと思っていても、支援隊なのだからしっかり与えられた任務をこなさなければいけないという緊張感。全員で大会を成功させようという一体感。本当に素晴らしいと感じました。それから、やはり登山は楽しかったです。高校からの仲間達、先輩方と一緒に登山が出来たことは、とても楽しくて嬉しかったです。現役の頃に戻ったみたいでした(笑)。会社には一週間休みを頂き、ご迷惑をおかけしました。そのおかげでいい経験ができました。吉田先生からは役員参加へのお声をかけていただき、本当にありがとうございました。またみんなで山に登りたいと心から思います。

## 山岳部OB会掲示板「ライダース・イン・ザ・スカイ」より

### 新潟インターハイに関する投稿

【213】新潟 吉田光二 - 12/6/2(土) 21:19 -

2年連続の最優秀校 通算 24 回目のインターハイへ

今年の県総体は5月31日から2日にかけて、平標山を会場に行なわれました。今夏の新潟インターハイの準備的な意味合いを持った大会運営で、初日は苗場プリンスホテルで開会式・テスト等を行い、苗プリ前の旧ゴルフ場を特設幕営地にして幕営・宿泊。2日目は松手山経由で平標山、平標山の家と縦走して平元新道を下り、苗プリ特設幕営地で2泊目。最終日は撤収後、班別講評・閉会式というものでした。

8月の新潟インターハイには斉藤会長はじめ13人のOBが大会役員として参加してくれるのに「現役が行けない」ことは避けなければと、斉藤会長からもコーチを受けて大会に向けて頑張り、18回目の最優秀校、通算24回目のインターハイ出場にこぎつけました。

選手は3年生4人でチームを組み、監督は石川先生。顧問の斉藤先生もコーチとして大会参加しました。詳細は後日の会報でお知らせします。

【214】Re:新潟 渡辺五郎 - 12/6/3(日) 14:49 -

県央工業、新潟インターハイ出場おめでとう！

県総体では最優秀校とのこと、部の今までの積み重ね、顧問の先生方、さらにOBに指導を含めた結果だと思います。

8月が楽しみになりました。

【215】Re:新潟 元コモ 和田 - 12/6/3(日) 20:50 -

県総体最優秀校、おめでとうございます。

来る日も来る日も訓練を重ね、何回も何回も平標に登った、その努力が報われましたね。

顧問の先生方やOB諸氏の導きや支えがあつての結果だと思います。大変お疲れ様でした。

でも、新たな、そして更に高い目標が目の前に現れました。残り2ヵ月はあつという間だと思いますが、私もできるだけの応援をさせていただきます。

部員全員と、顧問、OB、元コモのみんなで、すばらしい夏を体験しましょう。

【218】インターハイ情報は… 吉田光二 - 12/6/10(日) 18:05 -

湯沢町を検索してホームページのトップページにある

「平成24年度全国高等学校総合体育大会登山大会について」から入ってください。

日程、要項、登山大会の解説などのほか、予報1号では、県内の顧問の力作である大会山城の紹介があります。

自然観察のテストはこの中から出題されます。

なかなかよくできたと自負しています。ご一読ください。

特に役員の方々は事前学習にもなりますよ。必読ですよ。



【221】 県央工 県総体 石川恵子 - 12/6/12(火) 9:51 -

県央工山岳部です。

県総体の大会結果報告です。報告が遅くなってしまったことをお詫びいたします。すでに結果をご存じの方も多いと思いますが、5/31(木)～6/2(土)平標山で行われた県総体で見事最優秀校に選ばれました。選手はCL高橋将汰、SL波塚崇宏、難波翔汰、藤田一馬(4名とも3年生)で大会に臨みました。念願がかない新潟インターハイの出場権をようやく手にすることができました。1年生の時から「新潟インターハイ出場」を至上命令とされ、周囲の期待を背負いながら2年間歩み続けてきてくれた現3年生が存分に力を発揮してくれました。優勝旗を手にする事ができたのもOBの先輩方や元コモの先生方の支えがあったからこそと思っています。本当にありがとうございました。インターハイに向けて生徒、顧問一丸となって頑張ります。今後も変わらぬご指導とご支援をよろしくお願いします。



表彰式



最優秀校

【222】 Re:県央工 県総体 猪熊尚洋 - 12/6/12(火) 12:48 -

こちら遅くなりましたが・・・

新潟インターハイ出場、おめでとうございます！

昨年のOB会での話は現実のものとなりましたね。すばらしいです。

現地でサポート隊員としてご協力はできませんが、私は下界で仕事しながら皆様のご活躍を陰ながら応援させていただきたいと思います。

インターハイに向け何かと忙しいことと思いますが、みんなで心ひとつに県央工パワーで臨んでください。

【226】 県央工 近況報告 6/29 石川恵子 - 12/6/29(金) 15:22 -

県央工山岳部です。

県総体後の様子をお知らせします。

3年生は新潟インターハイに向けて日頃の活動もますます厳しくなってきました。体力作り、設営練習それからインターハイでのテスト勉強に力を注ぎながら頭の中は「山一色」の状態の日々を送っています。6/10(日)は3年生7名と顧問の石川、平出で三国峠コースに入って読図練習をしてきました。翌週末の6/16(土)は同じメンバーで苗場コースに入り読図練習を試みましたが、中ノ芝辺りからは残雪が多いうえに、天候も悪く、ホワイトアウトしていて先に進むことができなかつたため、下山し、車で三国へ移動して三国峠コースで再度読図練習を行いました。

一方で1, 2年生以下10名は6/16(土)に齋藤会長、元コモ齋藤先生、顧問の齋藤、小柳とともにバスを借りて白山へ向いました。この日は、3年生は湯沢へ、1, 2年生は村松へと2隊に分かれて活動になりました。1年

生にとっては平標山、権現堂山に続き3回目の山行です。1年生も炊事やテント生活には少しずつ順応してきたようですが、今回も体調不良や足痛で登ることができない生徒が2名も出てしまったのは残念でした。会長には足痛を訴えて3合目で離脱した生徒の下山に付き添ってもらったり、元コモの斎藤先生には草木の説明や解説をしてもらったり、2人の強力な助っ人にお手伝いいただきながらなんとか尾根線から上がり田村線から下って周回してことができました。本当にありがとうございました。ちなみに斎藤会長は3合目から生徒1名と下山した後、再び登り始め、白山山頂手前で本隊に合流しなんなく周回してしまう健脚ぶりでした。生徒、顧問ともに日頃のトレーニングの大切さを教えていただきました。

只今インターハイ選手4名は6泊7日(6/28~7/4)で合宿中です。学校の合宿所に寝泊まりし、4名で生活を送る訓練をしています。炊事、設営、トレーニング、山行、学校の期末試験、インターハイのテスト勉強と何でもありのボリューム満点の合宿です。今日はこれから旗手を務める3名の3年生も加えて石川、平出とともに湯沢へ向います。明日30(土)は先々週雪で阻まれた苗場山コースにリベンジしてくる予定です。読図練習がんばってきます。



3合目手前で読図指導



白山山頂にて



慈光寺付近を下山中

## 【227】全国大会合宿報告(6/30 苗場山)

石川恵子 - 12/7/1(日) 5:33 -

全国大会出場する選手たち4人は6月28日から合宿所での強化合宿を続けています。

6月30日には旗手を務める3人とともに、湯沢前泊し苗場山事前踏査を行ってきました。

2週間前には中ノ芝上部からは一面雪でしたが、2週間で雪は神楽ヶ峰の一部と苗場山山頂に残るのみ、鞍部お花畑ではシラネアオイの花でいっぱいでした。気持ちのよい風に助けられながら、選手たちは読図と記録、植生の確認などに汗を流してきました。

学習合宿、事前踏査と連続しますが、インターハイまでベストを尽くしていきたいと思っています。

【228】 6/30 苗場山 石川恵子 - 12/7/1(日) 5:44 -

写真を添付しましたのご覧下さい。



【232】 第1回安全対策会議 元コモ 和田正 - 12/7/8(日) 16:50 -

仰々しいタイトルですが、要するに「インターハイ役員研修」に行ってきました。

今回は、苗場山コースと三国峠コースで、A・B各隊の行動について、班長・副班長さんを中心に確認したという感じでした。

参加者は45名で、中にはこの春、中央高校を卒業したてのOGも参加していました。B隊の副班長さんです。途中で、強豪の富士宮西チームとすれ違ったときも、お互いに顔見知りだったようです。さすが、全国区！ということで、すでに何校かのチームが下見に入っていました。なかには、われわれ役員隊に着かず離れず付いてくるチームもあり、なかなか気を許すことができません。

あいにく天候は雨が中心でしたが、かえて気温が低く、体力的には楽に歩くことができました。山はいまや花盛りで、足元にはイワカガミやマイヅルソウ、目線をあげればベニサラサドウダンやムラサキヤシオが満開。三国峠のニッコウキスゲはぼつぼつと咲き始めていて、来週には満開かというところでしたが、残念ながら次回の踏査は苗場山と平標山なので、見たい方は土曜の午前一人に登ることをお勧めします。

来週の第2回研修は、総勢100名を超えるとのことで、支援隊も参加されるのではないのでしょうか。本部も苗場プリンスホテルに仮設され、無線交信もテストしますので、いよいよ私も出番となります。

新潟インターハイの成功に向け、また県央工の大活躍を期待して、お互いがんばりましょう。



和田小屋前のグレンデ



苗場山頂の雪原で



三角山で



**【234】 7/14-16 第2回安全対策会議**

元コモ 和田 - 12/7/17(火) 9:51 -

第2回の役員研修は、いよいよ県央OBも参加し、100名規模で行われました。また、中央OGも多数参加していたので、華やかさもあり、暴走気味の男どもに少し心配もし…ということで、大変盛り上がった2泊3日でした。

元コモは、今回は本部通信係ということで、大会本部となる苗場プリンスに陣取っての2日間。先週歩いた登山道を思い浮かべながらの交信業務となりました。最初はぎこちない通信も、次第に調子を掴み、現地とのスムーズな交信ができるようになりました。途中には、様々な状況に対する訓練も行われ、本番さながらの緊張感でした。

この間、同じく本部通信の吉田先生と通信中継の宇佐見先生との間で丁々発止のやりとりが続き、別の意味で緊張するやら弛緩するやら、自分を保つのに多くのエネルギーを消費したような気がします。

OB諸氏にも山は久々な方が多く、様々なアクシデントがあったようですが、そのレポートは会長にゆずりたいと思います。

また、現役の選手隊も入山したようすし、他県のチームも多く入っていたようです。本番までいよいよ3週間。体調を整え、準備に余念無く過ごしたいと思っています。お互いに頑張りましょう。



設営本部の説明



本部の無線設備



今日も登るぞ

**【235】 7/15,16 苗場山、平標山**

斎藤 勲 - 12/7/17(火) 23:06 -

前項で元コモよりレポートして頂いたが、県央工OBの支援隊員13名は7/14の安全対策会議後、7/15は苗場山、7/16は平標山を隊列の中に入り視察する。

**7/15 苗場山**

雨具を着けて出発する。出発直後に隊員1名の片方の靴底がはがれ隊から離脱する。(本部から車で回収してもらおう。)

視察のため入山している多くの県のチームとすれ違う。本校チームとも頂上直下の雲尾坂ですれ違う。チーム一丸、元気で下山していった。

頂上より下山中、もう1名の隊員の靴底がはがれる。これは針金で修理して下までもたせる。2名とも安価な靴の著しい劣化の為である。山に入る前にチェックすれば兆候が発見できたのではないかと思う。「必携パック」の中の針金の使い方「その1」を体得したことと思う。

また、靴は少し値のはるものを求めたい。事前事後のメンテナンス中の観察も良くしたいものである。

**7/16 平標山**

1名が膝痛で不参加となる。高校山岳部で作った体力も磨かなければ錆びてしまう。山に登るには最低限のトレーニングは不可欠である。



一ノ肩下からの班行動への移行がスムーズにいかず時間がかかる。

出発以降、段々天気が良くなり暑くなってきた。本番ではもっと暑い訳なので給水対策に、OB会廣瀬事務局長の使っていたプラティバスの給水チューブ、炎熱対策に塩飴を手配しようと思った。

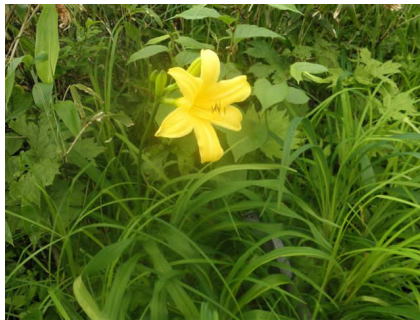
白山風炉、日光貴菅、金光花、白山千鳥、狸々袴、石楠花などは咲いていたが白山小桜はまだこれからのようだった。

今日は新潟市でのインターハイチームの結団式のニュースが報じられていた。県央工 OB 支援隊チームも体調管理に努め、用具確認を徹底し 8/6 の現地入りを迎えよう。

また大会での現役チームの健闘を祈っている。大会中、OB の小父さん達の無言の声援を受けてくれ。



苗場山頂はガスの中



お花畑の日光黄菅



平標山一ノ肩の下

**【236】 全国大会に向け強化合宿が続きます。**

石川恵子 - 12/7/19(木) 12:49 -

7月7日・8日には高体連の行事として新潟県のインターハイ出場チーム4校が県央工業に集結して合同学習会。吉田光二先生の指導のもとで、審査基準、歩行、設営、炊事、計画書などの練習・学習を合同で行いました。県総体でのライバルチームから工夫している点などを聞いたりし、お互いに技術を高め合えたと思います。県央工業チームとしてもこの合同合宿で気付いたことをふまえ、さらにチームとして工夫を加えるなど、質を高めるきっかけにできました。

翌週7月13日～16日は合宿所で県央工業単独での強化合宿も実施し、14日には苗場山へ事前踏査に入り、様々な点検作業を行いました。大勢の大会役員の方、全国大会の手伝いに来られる県央工業OBの皆さんにも山中でお会いし、励まして頂き、ありがとうございました。おかげさまで、充実した苗場山研究ができたと思っています。また山では全国からの出場チームにも会い、改めて気持ちをひきしめ全国大会を目指そうと感じてきました。7月20日からはまた山には入る予定です。最後まで気を抜かず、できることをしっかりやって準備をすすめていきたいと思っています。

今後とも応援をよろしく願いいたします。

### 【237】 合同練習会参加報告

石川恵子 - 12/7/22(日) 5:04 -

7月21日インターハイ出場4チームが集結し合同練習会が行われました。

第1部は全員で平標山コース、第2部は各隊に別れ、A隊は三国峠コースで事前踏査を行ってきました。

強い雨の中でしたが、読図や記録のポイントについてチェックしながら、歩行方法の点検にも留意し、盛り沢山の練習会になりました。

平標山ではキンコウカ、三国峠ではニッコウキスゲの夏を思わせる黄色い花が咲き始めていました。

いよいよ大会が近づきましたが、最後まで気を引き締めて頑張りますので、応援をよろしくお願いいたします。



練習会が始まりました



平元新道をくだる



三国峠で記念写真

### 【239】 いよいよ全国大会です。がんばります。

石川恵子 - 12/8/1(水) 17:14 -

7月30日31日第3回合同練習会に参加。苗場山で地点確認や記録のチェック、歩行の点検を行いました。県央工は加えて平標山で一ノ肩下までの上りの最終点検を行ってきました。

ふりかえれば、県総体終了後6月10日の三国踏査をかわきりに、インターハイにむけて準備を重ねてきました。

今回の山行を事前踏査の締めとして、あとはこれまでに蓄積したデータの確認や、装備や学習の点検に集中し大会に入りたいと考えています。

山に行けば多くの先輩たちに会い、励ましの声をかけて頂いたことに本当に感謝申し上げます。

また、大会役員としても多くの先輩たちが尽力して下さるこの大会にチームとしても出場できることを本当にうれしく思います。

自分たちのベストを尽くしてきますので、最後までご声援下さいますよう、よろしくお願いいたします。

いよいよ大会です。がんばります!!!



平標山をバックにがんばるぞ

**【240】 Re:いよいよ全国大会です。がんばります。** 猪熊 尚洋 - 12/8/1(水) 18:21 -

関係者の皆様、インターハイに向けいろいろな準備ご苦労さまです。

いよいよですね。今年は新潟県での開催、OBの皆さんもサポートにまわってのインターハイということで、何か特別な感じがします。あいにくサポート隊員として現地で選手たちを応援することはできませんが、燕の片隅の暑い工場の中から皆さんのご活躍を祈念しています。

今まで養ってきた体力・知力・気力を総動員し、ガッツリと行ってきてください。

**【241】 インターハイ応援メッセージ** 猪熊 尚洋 - 12/8/3(金) 17:30 -

事務局の猪熊（26回生）です。

いよいよインターハイ…選手と吉田先生は5日に、サポート隊員は6日に現地入りするそうです。

今回のインターハイ出場にあたり、ご支援いただいた方々と、熱いメッセージの数々をご紹介します。

（敬称略・順不同）

**高野雄一**

**佐藤太地**

**大原栄一**

**徳橋弘倫**

・悔いの残らない様に「力」を出し切って来て下さい。

**鈴木孝一**

・インターハイご出場おめでとうございます

生涯の思い出になりますよう、ご活躍と安全を心より祈念いたします

**平田一也**

・24回目のインターハイ出場おめでとうございます！！

全国大会では地元の山々を思う存分楽しんで下さい。

**片野新太郎**

**佐藤貢**

・インターハイ登山の開催県のため大変な御苦勞をされていることとお察し申し上げます。

本番での御活躍をお祈りいたします。

**佐藤智哉**

・インターハイ出場おめでとうございます。本番は普段と全く違う空気が流れると思います。

ですが浮き足たらずに地に足をつけ今まで支えてくださった感謝の気持ちを忘れずに頑張ってください。

新潟県央工業山岳部 ファイト！！

**渡辺伸樹**

**佐野恵介**

・インターハイご出場おめでとうございます。

新潟での大会、良い結果が出せるように応援しております。

**高山光**

・おめでとうございます！！ホームでついに金メダル！！ですねw

「ようこそ新潟へ♪」という気持ちで他校の仲間といっぱい交流して、  
楽しさ苦しさ共有して かけがえのない青春の一ページを作ってきて下さい！

「花もと」がまってる…！？

…石川先生って…すごいですね。

#### **近藤秀峰**

#### **高橋圭一**

・応援しています。

#### **今井直樹**

#### **早川潤**

・少額ですがカンパさせていただきます。

大会選手へ『人生で何度もある経験ではないので、精一杯頑張って、楽しんで来て下さい』

#### **大山和俊**

・全国大会出場おめでとうございます。OBも現役部員達も一安心だと思います。ここで油断せず  
大会上位に入ればヒーローになれますね。暑さに負けないように頑張ってください。

#### **大山清史**

・全国大会出場おめでとうございます

怪我と後悔のないように頑張ってください

#### **川村健太**

#### **市川正和**

・インターハイの出場、お目出とう御座居ます。来年の母校100周年の記念になる様、

頑張ってください。同じ山岳部のOBとして誇りに思います。先生方の御尽力には、感謝申し上げます。

#### **金子徳蔵**

#### **山本正紀**

・インターハイ、頑張ってください。

#### **小出一雄**

・暑さに負けずに大いに山を楽しんできてください。健闘を期待しています。

#### **三村章司**

・インターハイ出場おめでとうございます。ご健闘をお祈りします。

#### **阿部孝幸**

・山岳部員の皆さんインターハイ県代表おめでとうございます  
めざせ1番！応援してます。(秀峰山岳会 運営委員長より)

#### **小林成行**

・卒業してから山岳部に参加できず申し訳ないです。

今日も出張ですが、県央工業の大会優勝を祈っています。

#### **渡辺五郎**

#### **大原正昭**

#### **石村統**



**和田正**

・大願成熟！

**猪熊尚洋**

・地元で開催のインターハイへの出場おめでとうございます

日頃の取り組みの成果を発揮し、完全燃焼してください。

**高橋小一郎**

・今までの24回インターハイと、今年は格別だということは皆様ご承知の通り。

全関係者、心を一つにして、見事に成果を得ましょう。心から祈っています。

**金子達**

・全国大会出場おめでとうございます。相当なプレッシャーもあったでしょうに、石川監督はじめ選手の諸君大健闘でしたね。支えて下さったOB会員、現役の部員にも敬意と大きな拍手を送りたいと思います。地元での全国大会です。あまり力(リキ)まず、全国の方々と交流する気持ちでやっていって下さい。

**廣瀬守彦**

**廣瀬哲也**

**斎藤勲**

・これまで十分に鍛練してきたことと思います。インターハイでは平常心で地力が発揮できるよう祈っています。

長い人生の中の青春の一ページを冷静にするしてほしいものです。また老OBはイベントが終わり高校卒業後も山や自然と親しむ心を持続してほしいと願っています。本来の登山は楽しく、心おどるものです。

**岩澤哲也**

**斉藤圭太**

・新潟インターハイ ベストを尽くしてがんばって下さい。

**志田篤史**

・大会を大いに楽しんでください。

**山崎丈輔**

**長谷川晴一**

・登山を生涯のスポーツとして楽しんで下さい。

**森田 豊**

**齋藤 誠**

**【242】 始まります 吉田光二・12/8/3(金) 23:04・**

いよいよ新潟インターハイが始まります。7年前、新潟インターハイを受け入れるべく準備し始めたことが思い出されます。まして、その後発病して休職し、人生もあきらめかけたものですから夢のようです。

14人のOBによる支援隊員に見守られて本校の選手が登ります。先頭は本校の生徒が旗手を務めます。選手宣誓は本校のCLです。こんな素晴らしい舞台ができたこと、OB会の伝統のおかげです。

支援隊員に参加してくれたOBは、これまでの山のブランクを埋めるべく、週末に登山に励んでいたとか。

この大会を契機にして、OB会の一体感、登山活動の活発化が期待されます。

開会式は7日10時から湯沢カルチャーセンターで、閉会式は11日10時から湯沢カルチャーセンターで行われます。一般入場できますので都合つく人はぜひおいでください。1・2年生も見学に来ます。1・2年生は県央魂のTシャツを着ています。声をかけてやってください。

**【243】 8/7 始まりました** 元コモ 和田 - 12/8/7(火) 12:21 -

本日、インターハイの登山大会が始まりました。

開会式では高橋 CL による堂々の選手宣誓が行われたとの速報が入りました。

こちら、苗場の大会本部では、本部記録通信の吉田・和田がひっそりと留守番。

時折掛かってくる問い合わせの電話に対応するくらいで、後は掲示物などの準備を進めているところです。

また、元コモ・宇佐美は、田代スキー場の高台に無線中継局を設置。本日より、とりあえず2泊を中継用無線機とともにする覚悟を決めて、入山して行きました。

本部の無線機は 5W の業務用デジタル固定機を中心に、100 台の 1W ハンディ機を使用。充電のための設備を配置するのに半日を費やしました。

さらに、使用する役員のための講習会も開催。円滑な運用と不測の事態に対応できる準備が整いました。

現在、湯沢カルチャーセンターでは、開会式後の審査まっ最中。午後からは、苗場に移動しての設営審査です。

いよいよ、待たなしの大会本番。今までに培った県央魂をいかに発揮し、苗場の山中に、県央の雄たけびを上げてほしいと願っています。



本部通信ブース



5W 固定局



ハンディ機 100 台

**【244】 Re:8/7 始まりました** 猪熊 尚洋 - 12/8/7(火) 13:10 -

元コモ和田先生、いつもお世話になっております。

大会開会後の投稿第 1 号、ありがとうございます。現地に行くと開会式の模様を遠くからでも見ることが出来るもののかな～?とか思ったりもしましたが、結局いつもどおりの煩雑な作業に追われて会社のパソコンから和田先生の投稿を拝見しているところです。

とりわけ表舞台ばかりに目が行きがちですが、今回のように大会運営がスムーズにいくための裏側を見せていただくのも、なかなか面白いと思います。大会中はご多忙でしょうから投稿もままならないだろうと察しますが、また時を改めてこの手のお話も聞かせてください。

あと、余計なこととは思いますが・・・2枚目の写真の無線機、電源の上に無線機本体を重ねるように設置しているように見えるのですが、電源本体からの放熱によって無線機本体が熱くならないでしょうか。

無線機本体は送信時に一番電力を消費・発熱しますが、あまり熱くなりすぎると恐らく保護回路が働いて送信出力を下げるような動作をするのではないかと思います。出力を下げて中継局が高台なので十分通信できるのでしょうか、できる限り本体の安定動作を優先するならば無線機本体は単品で置いたほうが良いように思うのですが、大丈夫でしょうか。

>本部の無線機は 5W の業務用デジタル固定機を中心に、100 台の 1W ハンディ機を使用。充電のための設

備を配置するのに半日を費やしました。

それにしてもスゴイ充電設備ですね。やはり大きな大会になるとこういった周辺設備も見たことのないものになるもんだなあと感じます。

いよいよ始まった新潟インターハイ、全国から集まった選手たちが持てる力を100%発揮できるよう、サポート頑張ってください。

猪熊 尚洋 (26 回生)

**【245】 Re:8/7 始まりました** 元コモ 和田 - 12/8/7(火) 14:08 -

猪熊さん、早速のレス、ありがとうございました。

>あと、余計なこととは思いますが・・・2枚目の写真の無線機、電源の上に無線機本体を重ねるように設置しているように見えるのですが、電源本体からの放熱によって無線機本体が熱くならないでしょうか。

ご心配いただきましてありがとうございます。

この固定機は、電源と本体は別筐体ですが、専用の固定金具で連結されており、放熱用のスペースも作ってありますので、恐らくは計算された構造かと思います。

ですが、ご指摘の点も考慮し、運用中の温度チェックも欠かさず行いたいと思います。

>それにしてもスゴイ充電設備ですね。やはり大きな大会になるとこういった周辺設備も見たことのないものになるもんだなあと感じます。

私たちの心配は、むしろ充電時の容量のほうで、できるだけ複数の壁コンセントからケーブルを引きましたが、全くの未知数です。

この後、初めての充電に掛かります。ドキドキ。

できるだけ報告したいと思います。余裕がなかったらごめんなさい。

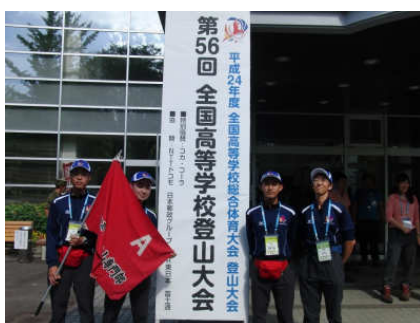
和田

**【246】 8/7 開会式** 元コモ 和田 - 12/8/7(火) 18:25 -

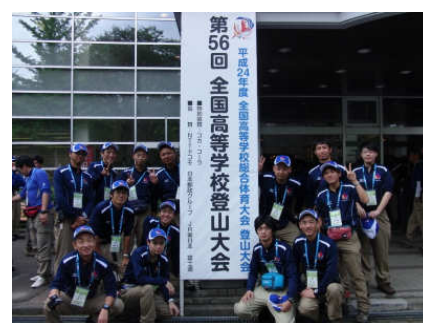
開会式会場でのスナップが入りましたので、速報します。



選手



旗手



支援隊

**【247】 8/9 幕営地、視察** 元コモ 和田 - 12/8/9(木) 20:09 -

大会、第3日目、苗場山を登り終えた選手を直撃しましたので速報します。

本日の山行は、かなりきつかったようで、色々ありました。



選手



幕営地



顧問テント

**【248】 Re:8/9 幕営地、視察** 猪熊 尚洋 - 12/8/10(金) 8:53 -

速報、ごくろうさまです。

>色々ありました。

その色々が気になりますが、それは今後の報告書をじっくりと読ませていただくまでのお楽しみですね。でも、きつかったとは言うもののカメラに対しては笑顔になれる4人の選手たちは、大したものだと思います。残り、頑張ってください。

猪熊 尚洋 (26 回生)

**【249】 優勝おめでとう** 渡辺五郎 - 12/8/12(日) 6:54 -

今朝の朝日新聞朝刊

11日の高校総体の記事を見た。

「前日に競技を終えた登山は成績発表があり男子は新潟県央工が初優勝、…」

おめでとう！

43年卒

**【250】 大会を終えて 感謝・感謝** 吉田光二 - 12/8/12(日) 8:48 -

7年前から準備してきた新潟大会。無事に、大成功に終えることができました。

今後のインターハイの見本となる大会でした。

すべからく皆様のご協力の賜です。

入学時からこの大会に向けて訓練してきた部員。

この部員に指導助言をもらった会長はじめとするOBの皆さん。

多くのOBからは、役員参加ができなくてもカンパに添えられたメッセージで選手・監督を励ましていただきました。

大会役員として参加してくれた14名のOB。

大会では選手を見守りながら、みんなで選手をステージ上へと押し上げていただきました。

成績は、体力で0.4減点、天気図で0.1減点を受けた以外はすべて満点という内容でした。減点を受けた天気図



にあっても参加校の中での最高点ですから満点のようなものです。

閉会式に参加した1・2年生は先輩の晴れ姿を見て、優勝杯を来年、大分に返却に行かなければならないことを実感したことでしょう。

OBもこれを機に登山再開の人もいました。

今後のOB会の活力になることでしょう。

私ごとですが、来春定年退職のため、21回のインターハイ出場をこの大会で締めくくることができました。

本当にありがとうございました。

吉田光二

**【251】 8/8 インターハイ(1)平標山 齋藤 勲 - 12/8/12(日) 9:19 -**

そのうちインターハイ関連のページもできるかと思うが、取り急ぎ山行中の様子を速報する。

ガスの中の登山となり暑くなく助かった。頂上付近では小雨がパラつく。頂上からの下山中、濡れた木道で一名の監督が転倒し手の小指を脱臼、随行の丸山医師の手当てを受ける。



平標登山口を出発する



一ノ肩を登る隊列



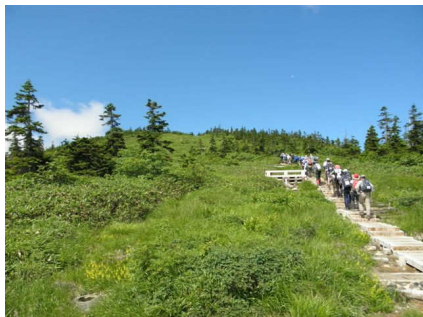
山頂直下のお花畑を通過

**【252】 8/9 インターハイ(2)苗場山 齋藤 勲 - 12/8/12(日) 9:32 -**

長丁場の今日も、昨日同様3時起床、5時引継式、5時20分バス出発で行動する。

時折ガスに包まれ快適な登山であった。

下山中、千葉県の手がシャリバテとなり、丸山医師の手当ての後、自衛隊員に背負われ下山する。



中ノ芝を登る監督団



苗場山頂に行く本校選手



苗場山頂上湿原

【253】 8/10 インターハイ(3)三国峠、三角山

斎藤 勲 - 12/8/12(日) 10:02 -

三角山を登るあたりから晴れて気温上昇、暑い1日になる。

今日は前日、前々日のような事故、体調不良者もなく、無事平標登山口に下山する。

毎日の引継式でのテスト答案用紙の返却時、他校監督と違い悠然とその場を動かない石川監督の頼もしい姿を見ているので優勝は予感しないでもなかったが、表彰式ではいろいろなことを思い出し涙腺が緩んでしまい困ってしまった。

今回の視察、インターハイ山行を通じて3名のOBの膝が故障してしまった。治療に専念しクセにならないよう完治させ、又、山に戻ってくる日を期待して待っています。

監督、選手、旗手、役員になられた先生方、OB支援隊員の皆様、本当にご苦労さまでした。



三角山へ向かう隊列



平標山の家へ向かう監督



山行を終えたOB支援隊

【254】 8/11 全国優勝

元コモ 和田正 - 12/8/12(日) 10:48 -

悲願の全国優勝、おめでとうございます。

99.5点で、優勝候補の広島修道を僅差で退けた、完璧な優勝でした。

すごい！ しびれた！ 泣けた！ よかったー……

以下、写真速報です。



表彰



笑いが止まらない



金銀銅チーム



**【255】 8/11 全国優勝を支えた人々**

元コモ 和田正 - 12/8/12(日) 11:26 -

全国優勝の余韻も冷めやらぬ中、次々と記念撮影、報道取材をこなすメンバー。

3年前の新人歓迎で「二度と白山には登らない」と叫んだ部員が、今ステージに登って、誇らしげに賞状を掲げている。また、うるうるしてしまった。

全国優勝への道のりには、4名の選手だけでなく、3名の旗手や行動役員として大会を支えた「チーム県央」の力強い足跡が刻まれている。それが吉田先生の退職を飾る見事な花道にもなった。そんな劇的な舞台に同席させていただいたことに感謝。



吉田先生の花道



チーム県央



県役員団に報告

**【256】 8/11 凱旋報告会**

元コモ 和田正 - 12/8/12(日) 11:47 -

県央工業では、原先生を中心に全国優勝チームを向かえる準備に大わらわ。

小嶋先生は即席の横断幕を用意、卓球部や合宿中の県外レスリング部員まで動員するなか、午後3時に優勝チームが県央工に到着し、土曜日の学校は時ならぬ歓声に包まれた。

原先生の名調子で始まった報告会には、校長、同窓会長も駆けつけて祝辞、高橋CLの成績報告、石川監督の挨拶と続いて「いしかわっ」という掛け声までかかると、セレモニーは最高潮。校歌斉唱、万歳三唱と、流れるような会の運営に、取材陣までびっくりの様子だ。

100周年の歴史に新しいページが加わった瞬間を垣間見た。

その時に、県央工職員でなかったことだけが、残念至極……。



報告会準備



凱旋



報告会

【257】 8/11 金メダル 元コモ 和田正 - 12/8/12(日) 12:00 -

選手胴上げの際を突いて、吉田先生に金メダルを掛けていただいた。

インターハイ、21回出場の記念に……。

メダルは地元燕市で製作された。



吉田先生に金



金メダル表



金メダル裏

【258】 インターハイの写真について 猪熊 尚洋 (26回生) - 12/8/19(日) 11:20 -

いつもお世話になっております。

先日のインターハイ優勝、大変おめでとうございます。また、一緒に行動された顧問やOB諸氏も大変ご苦勞様でした。大変だっただろうと思いますが、優勝の表彰という感動の瞬間に立ち会うことができたことは稀有なる体験になったと思います。

その感動がさめやらぬうちに支援隊員として同行した齋藤会長より1枚のCDが送られてきました。中にはインターハイでの行動中に撮影した写真が入っており、さっそくOB会アルバムに掲載させていただきました。

インターハイに同行しなかった者としては、こういった写真の数々を見せていただくのもまた楽しいものです。

ここでお願いですが、監督、顧問、支援隊員などさまざまな形で参加されていた方々の中で、同行中に撮影したインターハイ関連の写真をお持ちの方は、ぜひ事務局にお寄せいただけませんか。

お寄せいただく方法は前述のCDによる方法に限らず、メール添付や所定のサイトよりダウンロード、USBメモリによる手渡しなどご提供者の都合にできるだけ合わせます。

よろしく申し上げます。

【259】 OBの支援隊員感想文 吉田光二 - 12/9/4(火) 16:50 -

支援隊員に参加してもらったOBの感想文を募集しています。

ポツポツと届き始めていますが、まだの人はよろしく申し上げますね。

ついでに、使い道についてもご意見ください。

【265】 3年生(インターハイの旗手と選手)へ 齋藤 勲 - 12/9/16(日) 9:43 -

県央工山岳部から「インターハイ報告書」が送られてきた。選手、旗手、監督の感想は特に興味深く読ませてもらった。

旗手の3人の記述「全力で(選手)のサポートをしてきた」、「旗手は選手達の先導、ペースメーカーとしての役割を担った」には共感を覚えること大であった。言葉とおりに良くやってくれた。顧問の先生の指導の賜物で



あると思う。

下の写真を見て欲しい。OB会のアルバムにも載っているものであるが、1枚目は平標山の一ノ肩に隊列の先頭が着いた所である。一ノ肩頂上に先発の2名（1名はOB阿部さん）一ノ肩の右に旗手の掲げる赤旗が見えるだろう。

（小さくて見にくいのでクリック拡大して虫眼鏡で見て頂きたい。）

2枚目は苗場頂上を旗手の赤旗を先頭に出発して行くところである。

吉田先生からインターハイには旗手という役割があることを聞いた時、実効性のない無駄な役割ではないかと思ったものだが、インターハイに参加させてもらい考えは変わった。後続の選手、役員への視覚効果は大きいものがあった。それを本校の3人が勤めていると思い誇らしく思った。私は何枚か旗手の掲げる赤旗を写真に撮った。

チームワークに優れた3年生7人であったが、今後は進路も別れるのだろう。早めに進路が決定することを願っている。そして君達が築いた良き伝統を後輩に受け継いで卒業を迎えて欲しい。

最後に、卒業後も自分たちなりの「山」をぜひ続けていってほしいと願っている。



一ノ肩への急登を登る隊列

一ノ肩を登る隊列



苗場山頂。A隊先頭(赤旗)の出発

A隊先頭(赤旗)出発

## 【268】「新潟大会 OB 支援隊員の感想」を読んで

渡辺五郎 - 12/9/28(金) 22:10 -

新潟インターハイの優勝と共にこのOB会のWebページに寄せられた支援隊員の感想を読んだ。

ご苦労様でした。

また、支援隊員のOBが本校の選手と共に楽しい時を過ごせ私として羨ましい思いです。

昭和41年卒の斉藤OBから平成19年の川村OB、なんと42歳と年の開きのあるOB達が現役高校生の山岳競技の支援をした。

三条工業高校、新潟県央工業高校の山岳部の長い伝統とOBの繋がりを強く感じました。

昭和43年卒

**【266】 県央工業山岳部、今後もご支援よろしくお願ひします** 石川恵子 - 12/9/20(木) 8:21 -

全国大会の報告とお礼、夏合宿の報告をアップするのが大変遅くなり、心からお詫び申し上げます。山岳部のここまでの様子を簡単に報告させていただきます。

8月7日～11日に行われました北信越かがやき総体ではたくさんのOBの方々からの温かいご支援を頂き、お陰様で優勝を勝ち取ることができました。心から感謝を申し上げます。

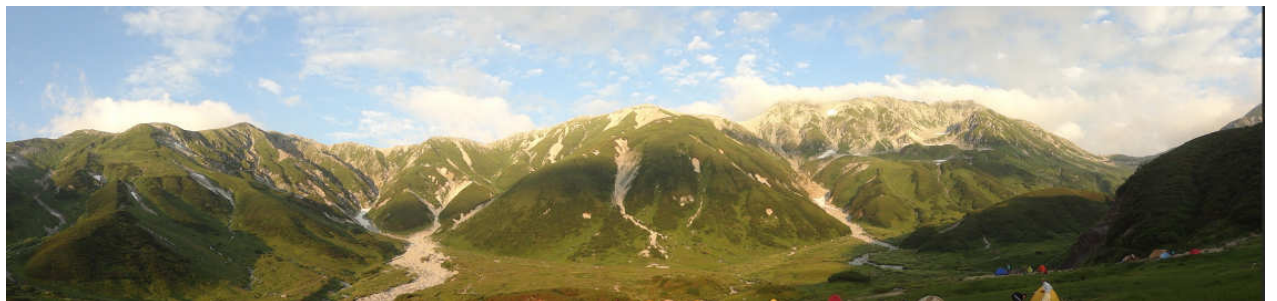
支援隊員として大会を支えて下さったOBの皆さん、本当にお疲れ様でした。

大会後、三条市長、県知事に堂々と県央工業優勝報告をさせて頂き、選手たちも大変名誉な経験をする事ができました。OBの皆様にあらためて報告させていただきます。

毎年恒例の夏山合宿を8月26日～29日、立山で行ってきました。

この合宿は来年度以降の山岳部の基礎作りになります。3年生との最後の山行を通して1,2年生部員には県央工業山岳部をいよいよ背負って立つ決意が固まったことを期待しています。

天候に恵まれた4日間、剣の雄姿に3年生7人は卒業したあと、剣岳を監督共々登頂したいという思いを強く持ったようでした。卒業後再び集い、またともに山を歩く日を楽しみにしたい思いました。



山岳部の近況ですが、9月13日(木)～14日(金) 秋季全県登山大会が栗ヶ岳を会場に行われました。今年度は3年生7人が補助役員として、全国大会までお世話になったお礼の気持ちも込めて、参加させていただきました。そして1,2年生は審査のない大会でしたが、新県央工チームを意識して参加をしてきました。当日は気温が上がり、コンディショ的には難しい山行になりました。今回大会に参加して感じたことは、新チームが固まるまでにはまだまだだいぶ時間がかかりそうだということです。体力的な部分、精神的な部分で克服すべきことが非常に多く、もっともっと鍛えていかなければということを実感できたことが収穫でした。

山岳部へのOBの皆さんからの常日頃のご声援感謝しております。

また一步一步部活動を進めていきたいと思っておりますので、今後も皆さんからの応援をよろしくお願ひいたします。

**【274】山と溪谷 11月号**

渡辺五郎 - 12/10/21(日) 18:12 -

今日、町の図書館で読みました。

4ページで新潟インターハイの登山大会の取材報告、山の仲間に高校総体の登山大会を説明しても今一つ良く理解してもらえません。

今度は仲間に「山と溪谷の11月号」を読め、と言います。

この4ページ、新潟県央工業高校のための記事ですね。

また波塚ファミリーの高校山岳部に入っている親の気持ち、たぶん私の親もそのような気持ちだったと考えています。

今日も山に行って来ました。近くの吾妻の一峰です。

歩き始めたらいきなり雨、昼近くまで続きました。

ここ2週間位の間、好天が続き夜が冷えたせいか紅葉が素晴らしかった。

工業 S43 卒

## インターハイ関連の記事転載

2012年8月12日 三條新聞紙面より

2012年8月25日 三條新聞紙面より



# 県央工業山岳部ついに全国制覇

かがやき総体 男子チームの女性監督も初めて  
登山競技大会



大会後を石川監督(右)と選手たち



山岳部の役員とコーチたちの写真



有終の老翁と脚上された部長(前)



金メダルを手にした山岳部の選手たち(左が副部長、波藤)

## 旧三条工業時代から4回目のメダル 6月下旬から合宿所で生活

### 通常の授業こなしながら

開催中のかがやき総体で、平塚三國山系行われた登山競技大会は1日に閉じ、男子の部では三条市の新堀山登山部が優勝し、石川監督、選手4人が初優勝で全国制覇を達成。開校山岳部を千代年間で完成させた。開校以来、男子の部では新堀山登山部が優勝し、女子の部では新堀山登山部の選手が優勝した。

開会式を行い、苗場、田代、千代、下野の4コースをそれぞれ1日ずつ走り、男子の部では新堀山登山部が優勝し、石川監督、選手4人が初優勝で全国制覇を達成。開校山岳部を千代年間で完成させた。開校以来、男子の部では新堀山登山部が優勝し、女子の部では新堀山登山部の選手が優勝した。

開校以来、男子の部では新堀山登山部が優勝し、女子の部では新堀山登山部の選手が優勝した。開校山岳部を千代年間で完成させた。開校以来、男子の部では新堀山登山部が優勝し、女子の部では新堀山登山部の選手が優勝した。

開校以来、男子の部では新堀山登山部が優勝し、女子の部では新堀山登山部の選手が優勝した。開校山岳部を千代年間で完成させた。開校以来、男子の部では新堀山登山部が優勝し、女子の部では新堀山登山部の選手が優勝した。

大崎開中選手は常に奮闘している。体力、精神力、テクニック、気合や自覚、観察、記録、計画、教養などの各項目をこなす。開校山岳部の選手たちは、通常の授業をこなしながら、6月下旬から合宿所で生活を営んでいる。

開校山岳部は、毎週通って練習している。選手たちは、通常の授業をこなしながら、6月下旬から合宿所で生活を営んでいる。開校山岳部は、毎週通って練習している。選手たちは、通常の授業をこなしながら、6月下旬から合宿所で生活を営んでいる。

開校山岳部は、毎週通って練習している。選手たちは、通常の授業をこなしながら、6月下旬から合宿所で生活を営んでいる。開校山岳部は、毎週通って練習している。選手たちは、通常の授業をこなしながら、6月下旬から合宿所で生活を営んでいる。

開校山岳部は、毎週通って練習している。選手たちは、通常の授業をこなしながら、6月下旬から合宿所で生活を営んでいる。開校山岳部は、毎週通って練習している。選手たちは、通常の授業をこなしながら、6月下旬から合宿所で生活を営んでいる。

開校山岳部は、毎週通って練習している。選手たちは、通常の授業をこなしながら、6月下旬から合宿所で生活を営んでいる。開校山岳部は、毎週通って練習している。選手たちは、通常の授業をこなしながら、6月下旬から合宿所で生活を営んでいる。

開校山岳部は、毎週通って練習している。選手たちは、通常の授業をこなしながら、6月下旬から合宿所で生活を営んでいる。開校山岳部は、毎週通って練習している。選手たちは、通常の授業をこなしながら、6月下旬から合宿所で生活を営んでいる。

## 三条工業時代から約30年間 山岳部顧問を務めた 吉田顧問 みんなで胴上げ!!

来年度定年  
吉田顧問

開校山岳部は、毎週通って練習している。選手たちは、通常の授業をこなしながら、6月下旬から合宿所で生活を営んでいる。開校山岳部は、毎週通って練習している。選手たちは、通常の授業をこなしながら、6月下旬から合宿所で生活を営んでいる。





## 最高の地元優勝（県央工業高校生徒会新聞より）

平成 16 年、全国常任委員をしていた私は、全国事務局から「平成 24 年新潟大会」が告げられ、県内の専門委員に伝えながら開催準備に着手しました。

「新潟大会では絶対に優勝しなければ」。ところが私は、平成 20 年秋に持病悪化のため入院。二度の骨髄移植によって日常生活に復帰できましたが、山は登れなくなってしまいました。

しかし、山岳部は石川先生が監督を引き受けてくださり、大会は県内役員の努力でなんとか開催にこぎつけていただきました。

登山隊のシンボルともいえる旗手は本校山岳部 3 年生が務めて登山隊のトップを歩きます。登山隊役員には選手も顔なじみの県内顧問の先生方。極めつけは選手団の前後に本校山岳部 OB たちが支援隊員として登ります。

それは、長い年月と労力をかけて何百人もの人たちが作ってくれた、本校山岳部のための最高のステージでした。

新潟大会は、本校リーダーが選手宣誓をして開会。「優勝、新潟県・新潟県央工業高校」という成績発表で閉会し、大会も大成功で終わることができました。

OB や現役部員と、その感動を共有することもできました。

それらは、私が病床で夢見ていることの現実の姿でした。

21 回目、今年で最後となる私のインターハイは、多くの皆さんのおかげで最高の形で幕を閉じることができました。ただただ感謝、感謝です。地元優勝、最高でした。

山岳部顧問 吉田光二